



Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザ ガイド

Release 7.x

2008 年 8 月 25 日発行

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright (C) 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0805R)

Any Internet Protocol (IP) addresses used in this document are not intended to be actual addresses. Any examples, command display output, and figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses in illustrative content is unintentional and coincidental.

Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザガイド

Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2008, シスコシステムズ合同会社 .

All rights reserved.



CONTENTS

Cisco Unity Connection ユーザとしての登録	1
電話による Cisco Unity Connection の操作	3
Connection のカンパセーションについて	3
Connection のカンパセーションでの電話のキーパッドの使用	4
Connection のカンパセーションでのボイス コマンドの使用	4
ボイスメールの基本設定	5
Cisco Unity Connection の呼び出し	5
ボイス メッセージの送信	6
メッセージの確認	9
メッセージへの返信	11
メッセージの転送	13
受信確認の管理	15
メッセージの検索	17
メッセージの検索について	17
メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索	18
Phone View オプションを使用したメッセージの検索	19
メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索	22
削除されたメッセージの管理	23
削除されたメッセージについて	23
削除されたメッセージの完全な削除	24
削除されたメッセージの確認	25
ディスパッチ メッセージの管理	27
ボイス コマンドを使用した電話の発信	29
会議の管理	31
会議の管理について	31
予定されている会議の一覧表示	32
Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時会議の開始	33
ファックスの管理	35
ファックス オプションについて	35

ファックスの一覧表示	36
ファックス配信電話番号の変更	37
パーソナル グリーティングの管理	39
パーソナル グリーティングについて	40
標準グリーティング	40
時間外グリーティング	40
オプション グリーティング	40
通話中グリーティング	41
内線グリーティング	41
祝日グリーティング	41
現在のグリーティングの再録音	42
オプション グリーティングのオンまたはオフ	43
グリーティングの変更	44
すべてのグリーティングの再生	46
多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音	47
メッセージの到着通知設定の変更	49
メッセージの到着通知について	49
デバイスへの通知のオンまたはオフ	50
通知先電話番号の変更	51
プライベート同報リスト設定の変更	53
プライベート同報リストについて	53
プライベート同報リストの作成	54
プライベート同報リストのメンバーの変更	56
プライベート同報リストの録音名の変更	58
プライベート同報リストの削除	58
アドレス指定優先順位リストの管理	59
アドレス指定優先順位リストについて	59
アドレス指定優先順位リストの変更	60
個人設定の変更	61
個人設定について	61
電話パスワードの変更	62
録音名の変更	63
ディレクトリ一覧ステータスの変更	64
Connection カンパセーションのメニュー スタイルの変更	65
着信転送設定の変更	67
着信転送ルールについて	67

標準転送ルール	67
オプション転送ルール	67
時間外転送ルール	68
着信転送ルールの設定の変更	68
緊急連絡先番号の管理	71
緊急連絡先番号について	71
緊急連絡先番号の変更	71
着信コールを処理するパーソナル着信転送ルールの設定の管理	73
パーソナル着信転送ルールについて	73
基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化	74
パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化	75
個々のルール設定の有効化と無効化	76
個々の設定の有効化	76
個々の設定の無効化	77
[全て転送] ルール設定の使用	78
[全て転送] の有効化	78
[全て転送] の無効化	79
Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送	80
すべての着信の転送の有効化	80
すべての着信の転送のキャンセル	81
メッセージの再生設定の変更	83
メッセージの再生設定について	83
個々のメッセージの再生音量の変更	83
個々のメッセージの再生速度の変更	84
ブロードキャスト メッセージ	85
メールボックスのサイズの管理	87
メールボックスのサイズについて	87
メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由	88
メッセージ保存ポリシーが適用されていない可能性がある	88
不達確認がメールボックス全体のサイズに含まれる	88
メッセージの転送時に元のメッセージがメッセージ全体のサイズに含まれる	88
Cisco Unity Connection の電話メニューとボイス コマンド	89
標準カンバセーション用電話メニュー	90
メイン メニューとショートカット (標準カンバセーション)	90
メッセージ送信のメニューとショートカット (標準カンバセーション)	91

メッセージ再生中のメニューとショートカット (標準カンバセーション)	91
メッセージ再生後のメニューとショートカット (標準カンバセーション)	92
録音メニュー (標準カンバセーション)	92
クラシック カンバセーション用電話メニュー	93
メイン メニューとショートカット (クラシック カンバセーション)	93
メッセージ送信のメニューとショートカット (クラシック カンバセーション)	94
メッセージ再生中のメニューとショートカット (クラシック カンバセーション)	94
メッセージ再生後のメニューとショートカット (クラシック カンバセーション)	95
録音メニュー (クラシック カンバセーション)	95
オプション カンバセーション 1 用電話メニュー	96
メイン メニューとショートカット (オプション カンバセーション 1)	96
メッセージ送信のメニューとショートカット (オプション カンバセーション 1)	97
メッセージ再生中のメニューとショートカット (オプション カンバセーション 1)	97
メッセージ再生後のメニューとショートカット (オプション カンバセーション 1)	98
録音メニュー (オプション カンバセーション 1)	98
代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー	99
メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)	99
メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)	99
メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)	100
録音メニュー (代行キーパッド マッピング N)	100
代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー	101
メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)	101
メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)	101
メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)	102
録音メニュー (代行キーパッド マッピング X)	102
代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー	103
メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)	103
メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)	103

メッセージ再生後のメニューとショートカット（代行キーパッド マッピング S）	104
録音メニュー（代行キーパッド マッピング S）	104
ボイス コマンド	105
メイン メニュー（ボイス コマンド）	105
メッセージ送信のメニュー（ボイス コマンド）	106
メッセージ再生中のメニュー（ボイス コマンド）	107
会議リマインダ中のメニュー（ボイス コマンド）	107
メッセージ再生後のメニュー（ボイス コマンド）	108
ユニバーサル アクション（ボイス コマンド）	108

索引



Cisco Unity Connection ユーザとしての登録

Cisco Unity Connection を使用するには、最初に電話でユーザ登録を行います。通常、Connection がセットアップされると、初めてシステムを呼び出したときに初回登録ガイダンスが再生されます。

初回登録ガイダンスは、あらかじめ録音された一連のプロンプトであり、このガイダンスに従って次のタスクを実行します。

- 名前の録音
- 電話に 응답しない場合に外部の発信者が聞くグリーティングの録音
- 電話パスワードの変更
- ディレクトリに登録するかどうかの選択（ユーザがディレクトリに登録されていると、ユーザの内線番号を知らない発信者は、ユーザの名前を入力するか発音することによってユーザに到達できます）。

通常、Connection 管理者は、ID（通常はユーザの内線番号）と一時的な電話パスワードを割り当てます。

登録が完了した後はいつでも、名前およびグリーティングを再録音でき、また、電話パスワードの変更およびディレクトリ一覧ステータスの変更ができます。

Cisco Unity Connection ユーザとして登録するには

- ステップ 1** 社内の自分の電話、社内の別の電話、または社外の電話から該当する電話番号をダイヤルして、Connection を呼び出します。
- ステップ 2** 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、* を押ししてください。
- ステップ 3** ガイダンスをよく聞き、指示に従って応答します。登録時には、Connection のドキュメントを参照する必要はありません。登録処理が完了した場合は、システムからそのことが通知されます。

完全に登録が完了する前に電話を切った場合は、変更は何も保存されず、次回 Connection にログオンしたときに再度初回登録ガイダンスが再生されます。





電話による Cisco Unity Connection の操作

- [3 ページの「Connection のカンパセーションについて」](#)
- [4 ページの「Connection のカンパセーションでの電話のキーパッドの使用」](#)
- [4 ページの「Connection のカンパセーションでのボイス コマンドの使用」](#)

Connection のカンパセーションについて

電話で Cisco Unity Connection にアクセスすると、Connection のカンパセーションが再生されます。メッセージの送受信、グリーティングの録音、個人設定の変更を行う際には、録音された指示とプロンプトに従います。Connection へのアクセスには、任意の電話を使用できます。

電話を介して Connection を使用方法には次の 2 つがあります。

電話のキーパッド	電話のキーパッドでキーを押します。 両手を空けておく必要がない場合、雑音が多い環境にいる場合、またはより多くの Connection 機能オプションを使用したい場合は、このオプションを使用します。
ボイス コマンド	電話の受話器、ヘッドセット、またはスピーカーフォンに向かって発声します。 両手を空けた状態で Connection システムにアクセスする必要がある場合は、このオプションを使用します。



(注)

一部の TTY 電話 (テキスト電話) には、適切なトーンを送信する機能が備わっていません。その場合、TTY ユーザは Connection のカンパセーションを操作する際に、電話のキーパッドを使用することが必要になる場合があります。

Connection のカンパセーションでの電話のキーパッドの使用

Connection のカンパセーションにはいくつかのバージョンがあり、それぞれ Connection メニュー オプションとキーパッドのマッピングが異なります (たとえば、あるバージョンではメッセージを削除するのに 3 を押しますが、別のバージョンではメッセージを削除するのに 7 を押すことがあります)。

ユーザに対して再生されるカンパセーションのバージョンは、Connection 管理者が決定します。通常は、ユーザが使い慣れているキーパッド マッピングが設定されたカンパセーションを管理者が選択します。どのカンパセーションを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合せてください。

カンパセーションのキーパッド マッピングについては、「Cisco Unity Connection の 電話メニューとボイス コマンド」の章を参照してください (この章の「ボイス コマンド」の項に表示されているキーは、音声認識オプションが使用可能になっていて、ユーザがボイス コマンドを使用している場合にだけ適用されます)。

Connection のカンパセーションでのボイス コマンドの使用

Connection には、Connection のカンパセーションで行う動作を音声で伝えることができる音声認識オプションがあります。ボイス コマンドは直感的であり、使いやすく、大部分のボイス メッセージ タスクに利用できます。

使用できるボイス コマンドについては、Cisco Unity Connection 電話インターフェイス ユーザ ガイドの手順を参照してください。また、任意の時点で「Help」と発音すると、各メニューについての詳細情報を入手できます。利用可能なボイス コマンドのリストについては、105 ページの「ボイス コマンド」を参照してください。

メイン メニューで、「Tutorial」と発音すると、ボイス コマンドを使用した作業に関する一連のチュートリアルにアクセスできます。

カンパセーションの大部分においては、コマンドを使用することで割り込むことができます。システムのプロンプトが終了するまで待つ必要はありません。また、実行する作業を正確に把握している場合は、タスクを完了するためにメニュー階層を移動する必要はなく、複雑なコマンドを音声で伝えることができます。たとえば、メイン メニューで「Send a private and urgent message to Tina Chen」と発音することができます。

コマンドを音声で伝えにくい場合や、システムでコマンドが認識されない場合 (雑音の多い環境で携帯電話を使用している場合など) は、一部のコマンドを使用するためのキーパッド オプションのセットが音声認識オプションによって提供されます。すべてのメニューに利用できるキーパッド オプションを聞くには、0 を押すか、「Touchtone command Help」と発音します。

一時的にボイス コマンドを使用する代わりに電話のキーパッドだけを使用する場合は、メイン メニューで「Touchtone conversation」と発音するか、9 を押します。ボイス コマンドを使用する方法に戻すには、電話を切り、Connection に再度ログオンします。

音声認識オプションが使用可能かどうかについては、Connection 管理者に問い合せてください。



ボイスメールの基本設定

- 5 ページの「Cisco Unity Connection の呼び出し」
- 6 ページの「ボイス メッセージの送信」
- 9 ページの「メッセージの確認」
- 11 ページの「メッセージへの返信」
- 13 ページの「メッセージの転送」
- 15 ページの「受信確認の管理」

Cisco Unity Connection の呼び出し

Cisco Unity Connection は、社内の自分専用の電話、社内の別の電話、または社外の電話から呼び出すことができます。

Cisco Unity Connection を呼び出すには

- ステップ 1** 適切な電話番号をダイヤルして Connection を呼び出します。
- ステップ 2** 社内の別の電話または社外の電話から電話している場合は、Connection の応答後、* を押ししてください。
- ステップ 3** 指示に従って ID を入力し、# を押します。
- ステップ 4** Connection パスワードを入力し、# を押します。




(注) 音声認識オプションを使用している場合は、パスワードを発音で入力するか、電話のキーボードで入力するかを尋ねられる場合があります。パスワードを音声で入力するには、1 桁ずつ発音します。1 回目の試みで Connection がパスワードを認識できない場合は、キーボードでパスワードを入力する必要があります（セキュリティ上の理由により、パスワードは音声で入力するよりも電話のキーボードで入力する方が安全ですが、このオプションはいつでも使用できます）。

ボイス メッセージの送信

ボイス メッセージは、内線番号をダイヤルすることなく、他の Cisco Unity Connection ユーザに送信できます。相手の邪魔をしたくない場合や、電話で会話をしている時間がない場合は、ボイス メッセージを使用すると便利です。また、ボイス メッセージは、電子メールで伝わりにくい用件を伝達する場合にも役立つことがあります。

ボイス メッセージでは、1 人または複数の受信者、プライベート同報リスト、およびシステム同報リストを宛先として指定できます。メッセージの宛先を指定するには、使用する入力スタイルに応じて、Connection ユーザまたは同報リストの名前を発音するか、電話のキーボードを使用してユーザまたはリストの名前、あるいは内線番号またはリスト番号を入力します。

次の特別な送信オプションが利用できます。

緊急	メッセージに緊急のマークを付けて、Connection がそのメッセージを通常メッセージの前に送信するようにします。
受信確認の返信	受信確認を要求して、受信者がメッセージを開いたときに Connection が発信者に通知するようにします。  (注) Connection の電話メニューで受信確認を要求できる場合でも、すべてのタイプの受信確認を受け取れるとは限りません。Connection の管理者に、システムがユーザに対して受信確認を送信するように設定されているかどうかを問い合わせてください。
プライベート	メッセージにプライベートのマークを付けて、そのメッセージを機密扱いする必要があることを受信者がわかるようにします。Connection ユーザは、プライベート メッセージを電話から転送することはできません。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーボードとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーボードを使用してボイス メッセージを送信するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[メッセージを送信] オプションを選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、ボイス メッセージの録音、宛先の指定、送信を行います。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。



ヒント

- メッセージの宛先指定中に、名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します (メッセージの宛先にプライベート同報リストを指定する場合は、番号の入力に切り替える必要があります)。
- 宛先指定のエントリに複数のユーザが一致する場合は、すばやく移動できる一致リストが Connection によって再生されます。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を、次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を、リストの最後に進むには 99 を押します。

ボイス コマンドを使用してボイス メッセージを送信するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Send a message」

メッセージの受信者がわかっている場合や、メッセージのプロパティを指定する場合は、ここで次のように発音することができます。たとえば、「Send an urgent message to Tim Smith」や「Send a private message」と発音します。

ステップ 3 メッセージを録音します。終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。

ステップ 4 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。メッセージは他の Connection ユーザおよび同報リストに送信できます。

追加するつもりのない受信者が Connection によって追加された場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除します。



ヒント

- すばやく宛先を指定するには、Connection による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
- 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、9 を押します。受信者を追加すると、Connection は音声認識モードに戻ります。

ステップ 5 指示に従い、次のボイス コマンドを使用してメッセージを終了します。

アクション	ボイス コマンド
以後のアクションに関する Connection のプロンプトを終了する	「Done」
メッセージを送信する	「Send」
受信者のリストを確認する	「Review recipients」
メッセージ受信者のリストを編集する	「Edit recipients」
他の受信者を追加する	「Add names」
録音されたメッセージを編集する	「Change recording」
メッセージ プロパティを確認する	「Review message properties」
メッセージに緊急のマークを付ける	「Set urgent」
メッセージにプライベートのマークを付ける	「Set private」
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「Set urgent and private」
メッセージに受信確認を設定する	「Set return receipt」

■ ボイス メッセージの送信

アクション	ボイス コマンド
将来の日時にメッセージを配信する メッセージをいつ配信すればよいかを尋ねられたら、「Today」、「Tomorrow」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「Send」と発音する必要があります。	「Future delivery」
将来の配信をキャンセルする	「Cancel future delivery」
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「Review message」

メッセージの確認

新しいメッセージおよび開封済みメッセージは電話で確認できます。新規のボイス メッセージを一度再生すると、そのメッセージは保存されます。

新しいメッセージおよび開封済みメッセージは、メッセージの再生中に、またはメッセージ全体を聞き終えた後で削除できます。

メッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムが設定されているかどうかを Connection の管理者に確認し、そのように設定されている場合は、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください (Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません)。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してメッセージを確認するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、適切なメニュー オプション ([新しいメッセージの再生] または [古いメッセージを確認]) を選択します。
- ステップ 3** 指示に従い、メッセージを再生して管理します。
-

ボイス コマンドを使用してメッセージを確認するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から 「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Play Messages」。この場合、Connection は、新しいメッセージおよび開封済みメッセージの合計数を通知し、新しいボイス メッセージ、電子メール、および受信確認をすべて再生してから、開封済みメッセージを再生します。

または、

聞きたいメッセージのタイプを選択するには、次のコマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド	キー
新規および開封済みのボイス メッセージ、電子メール、または受信確認を再生する ¹	「Play <voice messages/e-mails/receipts>」	該当なし
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」	1
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from <ユーザ名>」	該当なし
開封済みボイス メッセージ、電子メール、または受信確認を再生する ¹	「Play saved <voice messages/e-mails/receipts>」	該当なし
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」	3

■ メッセージの確認

アクション	ボイス コマンド	キー
削除されたボイス メッセージ、電子メール、または受信確認を再生する ¹	「 Play deleted <voice messages / e-mails / receipts> 」	該当なし
削除されたメッセージをすべて再生する ²	「 Play deleted messages 」	該当なし

1. Connection の設定状況によっては、一部のメッセージ タイプで受信確認を受け取ることができない場合があります。

2. 一部のシステムでは使用不可。

ステップ 3 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド	キー
再度メッセージを再生する	「 Repeat 」	1
前のメッセージを再生する	「 Previous 」	1 4
次のメッセージを再生する	「 Next 」	1 6
開封済みメッセージとして保存 / 復元する	「 Save 」	2
メッセージを削除する	「 Delete 」	3
メッセージに返信する	「 Reply 」	4
全員に返信する	「 Reply all 」	該当なし
元のメッセージを再送する（不達受信確認のみ）	「 Resend 」	4
送信者を呼び出す ¹	「 Call sender 」	4 4
メッセージを転送する	「 Forward 」	5
新規メッセージとして保存 / 復元する ¹	「 Mark new 」	6
メッセージを巻き戻す	該当なし	7
メッセージ プロパティを再生する	「 Message properties 」	該当なし

1. 一部のシステムでは使用不可。

メッセージへの返信

メッセージに返信する場合は、送信者だけに返信するか、送信者および他のすべての受信者に返信するかを選択できます。また、受信者を追加することもできます。元のメッセージを再送信することによって、不達確認 (NDR) メッセージに返信することもできます。

「Unity Connection Messaging System」からのメッセージは、発信者が Connection ユーザでないか、またはメッセージを残したときに Connection ユーザとしてログオンしていなかったことを意味します。このような発信者からのメッセージには返信できません。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してボイス メッセージに返信するには

ステップ 1 メッセージの再生後、[返信] または [全員に返信] を選択します。

ステップ 2 指示に従って、録音、受信者の追加、返信の送信を行います。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。



ヒント

- メッセージの宛先指定中に、名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します (メッセージの宛先にプライベート同報リストを指定する場合は、番号の入力に切り替える必要があります)。
- 宛先指定のエントリに複数のユーザが一致する場合は、すばやく移動できる一致リストが Connection によって再生されます。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を、次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を、リストの最後に進むには 99 を押します。

ステップ 3 返信を送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

ボイス コマンドを使用してボイス メッセージに返信するには

ステップ 1 メッセージの聞き取り後、次のように言います。

送信者に返信するには、「Reply」と発音します。

または、

送信者およびすべてのメッセージ受信者に返信するには、「Reply all」と発音します。

ステップ 2 返信を録音します。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。

終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ステップ 3 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して返信を終了します。

■ メッセージへの返信

アクション	ボイス コマンド
以後のアクションに関する Connection のプロンプトを終了する	「 Done 」
返信を送信する	「 Send 」
受信者のリストを確認する	「 Review recipients 」
返信受信者のリストを編集する	「 Edit recipients 」
録音された返信を編集する	「 Change recording 」
返信プロパティを確認する	「 Review message properties 」
返信に緊急のマークを付ける	「 Set urgent 」
返信にプライベートのマークを付ける	「 Set private 」
返信に緊急およびプライベートのマークを付ける	「 Set urgent and private 」
返信に受信確認を設定する	「 Set return receipt 」
将来の日時に返信を配信する メッセージをいつ配信すればよいかを尋ねられたら、「 Today 」、 「 Tomorrow 」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信 キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「 Send 」と発音する 必要があります。	「 Mark for future delivery 」
将来の配信をキャンセルする	「 Cancel future delivery 」
他の受信者を追加する	「 Add names 」
録音された返信および返信プロパティを確認する	「 Review message 」

ステップ 4 返信を送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

メッセージの転送

プライベートのマークが付いているメッセージを電話から転送することはできません。このメッセージには、Connection ユーザがプライベートのマークを付けたボイス メッセージも含まれます。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してメッセージを送信するには

ステップ 1 メッセージの再生後、[メッセージの転送] オプションを選択します。

ステップ 2 指示に従って、音声コメントの録音、宛先の指定、転送されたメッセージの送信を行います。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。



ヒント

- メッセージの宛先指定中に、名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します (メッセージの宛先にプライベート同報リストを指定する場合は、番号の入力に切り替える必要があります)。
- 宛先指定のエントリに複数のユーザが一致する場合は、すばやく移動できる一致リストが Connection によって再生されます。リストから受信者を選択するには # を押します。前の名前に戻るには 7 を、次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を、リストの最後に進むには 99 を押します。

ステップ 3 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

電話でボイス コマンドを使用してメッセージを転送するには

ステップ 1 メッセージの再生後、「Forward」と発音します。

ステップ 2 必要に応じて、転送するメッセージに音声コメントを録音します。録音を一時停止または再開するには、8 を押します。

終了後、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ステップ 3 指示に従って、メッセージ受信者の名前を発音します。

追加するつもりのない受信者が Connection によって追加された場合は、「Remove」と発音して最後に追加された受信者を削除します。



ヒント

- すばやく宛先を指定するには、Connection による確認メッセージが終了する前に、次の受信者の名前を発音します。
- 受信者を追加するために一時的に電話のキーパッドを使用するように切り替えるには、9 を押します。受信者を追加すると、Connection は音声認識モードに戻ります。

ステップ 4 指示に従って、次のボイス コマンドを使用して転送メッセージを終了します。

アクション	ボイス コマンド
以後のアクションに関する Connection のプロンプトを終了する	「 Done 」
転送メッセージを送信する	「 Send 」
受信者のリストを確認する	「 Review recipients 」
転送メッセージの受信者のリストを編集する	「 Edit recipients 」
録音された音声コメントを編集する	「 Edit message 」
転送メッセージのプロパティを確認する	「 Review message properties 」
転送メッセージに緊急のマークを付ける	「 Set urgent 」
転送メッセージにプライベートのマークを付ける	「 Set private 」
転送メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「 Set urgent and private 」
転送メッセージに受信確認を設定する	「 Set return receipt 」
将来の日時に転送メッセージを配信する	「 Mark for future delivery 」
メッセージをいつ配信すればよいかを尋ねられたら、「 Today 」、 「 Tomorrow 」、曜日、または暦日と時刻を発音します。将来の配信 キューにメッセージを入れる準備ができたなら、「 Send 」と発音する 必要があります。	
将来の配信をキャンセルする	「 Cancel future delivery 」
他の受信者を追加する	「 Add names 」
録音された音声コメントおよび転送メッセージのプロパティを確認する	「 Review message 」

ステップ 5 転送するメッセージを送信後、指示に従って元のメッセージを処理します。

受信確認の管理

Cisco Unity Connection を使用する際、表 1 に示されているように、いくつかの異なるタイプの受信確認を管理できます。どの受信確認を使用するよう設定されているかは、Connection 管理者に問い合せてください。

表 1 Cisco Unity Connection 受信確認

タイプ	説明
開封	受信者がメッセージを再生すると、通知される受信確認メッセージ。
不達 (NDR)	メッセージを目的の受信者に配信できなかった場合に、通知される受信確認メッセージ。

メッセージを確認する場合、Connection はその他のメッセージとともに受信確認を再生します。受信確認を再生および管理する方法は、その他のメッセージの場合と同じですが、不達受信確認 (NDR) に対する返信や転送はできません。

開封受信確認では、送信したメッセージを再生した受信者のリストが Connection によって再生されます。NDR では、Connection によって、メールボックスでメッセージを受け入れなかった受信者が示されます。

Connection が NDR を再生した後は、元のメッセージを再生し、それを受信できなかった受信者に再送することができます。音声コメントの録音、受信者リストの修正、メッセージ再送時の配信オプションの変更を実行できます。メッセージを再送すると、自動的に Connection によって NDR が削除されます。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して受信確認を管理するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[新しいメッセージの再生] > [受信確認] の順に選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、受信確認を管理します。
-

ボイス コマンドを使用して受信確認を管理するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Play Receipts」。この場合、Connection は、受信確認の合計数を通知してから、受信確認を再生します。

または、

「Play <new/saved/deleted> receipts」。この場合、Connection は、基準を満たす受信確認の数を通知してから、受信確認を再生します。

ステップ 3 受信確認の聞き取り後に受信確認を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド	キー
再度受信確認を再生する	「 Repeat 」	1
開封済みメッセージとして保存 / 復元する	「 Save 」	2
受信確認を削除する	「 Delete 」	3
元のメッセージを再送する (NDR のみ)	「 Resend 」	4
新規メッセージとして保存する	「 Mark new 」	6
受信確認を巻き戻す	該当なし	7
受信確認プロパティを再生する	「 Message properties 」	該当なし
元のメッセージを再生する (NDR のみ)	「 Play original message 」	8



メッセージの検索

- [17 ページの「メッセージの検索について」](#)
- [18 ページの「メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索」](#)
- [19 ページの「Phone View オプションを使用したメッセージの検索」](#)
- [22 ページの「メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索」](#)

メッセージの検索について

Cisco Unity Connection には、電話でメッセージを検索するためのオプションが 3 つあります。

メッセージ ロケータ	検索基準に基づいて、新しいボイス メッセージおよび開封済みボイス メッセージを検索できます。
Phone View	検索基準に基づいて、新しいボイス メッセージおよび開封済みボイス メッセージを検索でき、結果は Cisco IP Phone の LCD 画面に表示されます。
メッセージ ジャンプ	メッセージ番号に基づいて、開封済みメッセージを検索できます。

これらのオプションの一部は使用できない場合があります。Connection 管理者に問い合わせてください。

メッセージ ロケータ オプションを使用したメッセージの検索

メッセージ ロケータでは、ユーザ名または内線番号を入力することにより、特定のユーザからのボイス メッセージを検索します。また、外部からのすべての発信者のボイス メッセージや、特定の番号からかけた発信者のメッセージを検索することもできます。

入力する基準に基づいて、Cisco Unity Connection はメッセージが検出されると、再生を開始します。デフォルトでは、メッセージは、新しいか開封済みかにかかわらず、新しいものから順に示されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

電話のキーパッドを使用してメッセージ ロケータでメッセージを検索するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 ボイス コマンドを使用していない場合は、[ステップ 3](#) に進みます。


ボイス コマンドを使用している場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、9 を押して、インプット スタイルを一時的に電話のキーパッドに切り替えます。



ヒント メッセージ ロケータの使用後にインプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、電話を切り、Connection に再度ログオンします。

ステップ 3 メイン メニューで、[メッセージを検索] オプションを選択します。

ステップ 4 探しているボイス メッセージを検索して管理するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

別のユーザから	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します
外部のすべての発信者から	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザ アカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログオンしていないユーザが含まれます。
特定の外部発信者から	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後 # を付けます。  (注) 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合せてください。

Phone View オプションを使用したメッセージの検索

Phone View を使用すると、Cisco IP Phone の LCD 画面にボイス メッセージの送信者、日付、時刻が表示されます。検索基準を入力すると、選択されたボイス メッセージが LCD 画面に表示されます。デフォルトでは、メッセージは、新しいか開封済みかにかかわらず、新しいものから順に掲載されます。ただし、Connection の管理者がこの再生順序を変更する場合があります。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して Phone View でメッセージを検索するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[メッセージを検索] オプションを選択します。
- ステップ 3** 探しているボイス メッセージを検索するには、適切なオプションを選択して指示に従います。

すべての新規ボイス メッセージ	まだ聞いていないボイス メッセージが Connection によって表示されます。
すべてのボイス メッセージ	Connection によって新しいメッセージおよび開封済みメッセージが表示されます。
別のユーザから	指示に従って、電話のキーパッドでユーザ名またはユーザの内線番号を入力します。名前を入力と番号の入力を切り替えるには、## を押します
外部のすべての発信者から	Connection は、身元不明発信者からのメッセージを検索します。これには、外部からの発信者と、外部の電話またはユーザ アカウントに関連付けられていない電話（会議室など）からかける前に Connection にログオンしていないユーザが含まれます。
特定の外部発信者から	指示に従い、電話のキーパッドを使用して発信者の電話番号をすべてまたは一部入力し、その後 # を付けます。 一部の発信者の電話番号の先頭には、国コードや市外局番などが追加されている場合があります。すべての発信者の番号がシステムに保存されているとは限りません。特定の発信者からのメッセージが見つからない場合は、Connection 管理者に問い合せてください。

- ステップ 4** メッセージ リストが電話の LCD 画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

Select	選択されたメッセージの再生を開始します。
Next	該当する場合は、次のメッセージ ページに移動します。
Previous	該当する場合は、前のメッセージ ページに移動します。
More	[Go To] および [Exit] ソフト キーが表示されます。このキーは、最大 4 つのソフト キーを表示する電話にだけ表示されます。
Go To	電話のキーパッドを使用してメッセージ番号を入力できる画面が表示され、そのメッセージを選択することでそのメッセージにスキップします。
Exit	表示されているメッセージ リストの再生を終了します。これによって Connection の検索条件プロンプトに戻ります。

ステップ 5 指示に従い、メッセージを再生して管理します。

ボイス コマンドを使用して Phone View でメッセージを検索するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、適切なボイス コマンドを使用して、電話の LCD 画面に表示するメッセージのタイプを選択します。

アクション	ボイス コマンド
新規および開封済みのボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「 Show <voice messages/receipts> 」
すべての新規ボイス メッセージを表示する	「 Show new messages 」
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを表示する	「 Show <new/saved/deleted> messages from < ユーザ名 > 」
開封済みのボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「 Show saved <voice messages/receipts> 」
開封済みのボイス メッセージを表示する	「 Show saved messages 」
削除されたボイス メッセージまたは受信確認を表示する	「 Show deleted <voice messages /receipts> 」
削除されたボイス メッセージを表示する ¹	「 Show deleted messages 」

1. 一部のシステムでは使用不可。

ステップ 3 メッセージ リストが電話の LCD 画面に表示された後、Connection によって再生されるメッセージを選択するには、次のソフト キーを使用します。

Select	選択されたメッセージの再生を開始します。
Next	該当する場合は、次のメッセージ ページに移動します。
Previous	該当する場合は、前のメッセージ ページに移動します。
More	[Go To] および [Exit] ソフト キーが表示されます。このキーは、最大 4 つのソフト キーを表示する電話にだけ表示されます。
Go To	電話のキーパッドを使用してメッセージ番号を入力できる画面が表示され、そのメッセージを選択することでそのメッセージにスキップします。
Exit	表示されているメッセージ リストの再生を終了します。これによって Connection の検索条件プロンプトに戻ります。

ステップ 4 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド	キー
再度メッセージを再生する	「 Repeat 」	1
前のメッセージを再生する	「 Previous 」	1 4
次のメッセージを再生する	「 Next 」	1 6
開封済みメッセージとして保存 / 復元する	「 Save 」	2
メッセージを削除する	「 Delete 」	3
メッセージに返信する	「 Reply 」	4
全員に返信する	「 Reply all 」	該当なし
元のメッセージを再送する (NDR のみ)	「 Resend 」	4
メッセージの送信者を呼び出す ¹	「 Call sender 」	4 4
メッセージを転送する	「 Forward 」	5
新規メッセージとして保存 / 復元する ¹	「 Mark new 」	6
メッセージを巻き戻す	該当なし	7
印刷のためにファックス機に送信する ¹	「 Fax 」	8
メッセージ プロパティを再生する	「 Message properties 」	9

1. 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ ジャンプ オプションを使用したメッセージの検索

メッセージを聞く際、メッセージ ジャンプ オプションを使用して、メッセージの番号を入力することによって特定のメッセージを検索できます。

電話のキーパッドを使用してメッセージ ジャンプでメッセージを検索するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 ボイス コマンドを使用していない場合は、[ステップ 3](#) に進みます。

ボイス コマンドを使用している場合は、「Touchtone conversation」と発音するか、9 を押して、インプット スタイルを一時的に電話のキーパッドに切り替えます。



ヒント メッセージジャンプの使用後にボイス コマンドを使用する方法に戻すには、電話を切り、Connection に再度ログオンします。

ステップ 3 メイン メニューで、適切なオプション（[新しいメッセージの再生]または[古いメッセージを確認]）を選択します。

ステップ 4 メッセージ ジャンプ ショートカット キーを押します。



ヒント メッセージ番号を入力するプロンプトを再生するためのショートカット キーについては、Connection 管理者に問い合せてください。

ステップ 5 指示に従ってメッセージ番号を入力し、その後に # を入力します。

ステップ 6 メッセージの聞き取り後にメッセージを管理するには、指示に従います。



削除されたメッセージの管理

- [23 ページの「削除されたメッセージについて」](#)
- [24 ページの「削除されたメッセージの完全な削除」](#)
- [25 ページの「削除されたメッセージの確認」](#)

削除されたメッセージについて

Cisco Unity Connection では、削除されたメッセージが保存されます。これらのメッセージは再生、復元、または完全に削除することができます。

削除されたメッセージの完全な削除

メッセージの削除は、特に Cisco Unity Connection が一定時間の経過後にメッセージを自動的に削除するように設定されていない場合、メールボックスのサイズを削減できる重要な手段です。

メッセージ保存ポリシーを強制的に実行するように設定されているかどうかを、Connection の管理者に確認してください。Connection は、メッセージ保存ポリシーが強制的に実行されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません。Connection に保存ポリシーが設定されていない場合は、定期的にメッセージを完全に削除してください(メールボックスのサイズが割り当て分を超えた場合の対処方法については、「[メールボックスのサイズの管理](#)」の章を参照してください)。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してメッセージを完全に削除するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[古いメッセージを確認] > [削除されたメッセージ] の順に選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、削除されたメッセージの確認と削除を個別に行うか、すべてのメッセージを同時に削除します。
-

ボイス コマンドを使用してメッセージを完全に削除するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

削除されたすべてのメッセージを完全に削除するには、「Empty Deleted Items folder」と発音します。Connection によってアクションの確認を求められたら、「Yes」と発音します。

または、

メッセージを 1 つずつ完全に削除するには、「Play deleted messages」と発音します。メッセージを聞き取った後にそのメッセージを完全に削除するには、「Delete」と発音します。現在のメッセージを削除しないで次のメッセージにスキップするには、「Next」と発音します。

削除されたメッセージの確認

削除されたメッセージは、新しいメッセージや開封済みメッセージと同様に再生することができます。また、削除されたメッセージを新しいメッセージまたは開封済みメッセージとして復元することもできます。

デフォルトでは、最も新しいメッセージが最初に再生されます。削除されたメッセージでは、メッセージ タイプ メニューを使用可能にしたり、タイプによって再生順序を指定したりできないことに注意してください。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して、削除されたメッセージを確認するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[古いメッセージを確認] > [削除されたメッセージ] の順に選択します。
 - ステップ 3** メッセージを再生した後、指示に従って、削除されたメッセージを管理します。
-

ボイス コマンドを使用して、削除されたメッセージを確認するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

削除済みメッセージをすべて再生するには、「Play deleted messages」と発音します。

または、

特定の Connection ユーザからの削除済みボイス メッセージを再生するには、「Play deleted messages from <ユーザ名>」と発音します。

または、

特定のタイプの削除されたボイス メッセージを再生するには、「Play deleted <voice messages/e-mails/receipts>」と発音します（Connection は、テキスト / スピーチ オプションを持つユーザについてだけ電子メールを再生します）。
 - ステップ 3** 聞き取り後に削除されたメッセージを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。


アクション	ボイス コマンド
再度メッセージを再生する	「 Repeat 」
前のメッセージを再生する	「 Previous 」
次のメッセージを再生する	「 Next 」
開封済みメッセージとして復元する	「 Save 」
メッセージを完全に削除する	「 Delete 」
メッセージに返信する	「 Reply 」
送信者を呼び出す ¹	「 Call sender 」
メッセージを転送する	「 Forward 」
新規メッセージとして復元する ¹	「 Mark new 」
メッセージ プロパティを再生する	「 Message properties 」

1. 一部のシステムでは使用不可。



ディスパッチ メッセージの管理

ディスパッチ メッセージは、問題に回答可能なユーザの同報リストに送信されますが、応答する必要があるユーザは 1 人だけです。ディスパッチ メッセージを再生する際には、次のオプションを使用できます。

メッセージを受信	このオプションを選択したユーザは、メッセージに回答する同報リストの唯一のメンバーであることを意味します。他のすべての受信者がメッセージを聞いたかどうかにかかわらず、メッセージのコピーは他のすべての受信者のメールボックスから削除されます。
メッセージを拒否	このオプションを選択したユーザのメールボックスからはメッセージが削除されますが、まだメッセージを拒否していない他の受信者のメールボックス内ではそのメッセージのコピーが未開封のまま残ります。  (注) 他のすべての受信者がディスパッチ メッセージを拒否した場合は、最後の 1 人のユーザがディスパッチ メッセージを受信する必要があります。最後の 1 人のユーザはメッセージを拒否できません。
メッセージの先送り	このオプションを選択したユーザとまだメッセージを拒否していない他の受信者のメールボックスには、メッセージが未開封のまま残ります。

同報リストのメンバーの 1 人によってメッセージが受け入れられると、Cisco Unity Connection によって残りの受信者のメールボックス内のコピーが削除されます。

ディスパッチ メッセージを再生する際には、次のことに注意してください。

- 自分がディスパッチ メッセージを受け入れる前に、他の受信者がディスパッチ メッセージを受け入れると、自分のメールボックスからはメッセージのコピーが削除されます。
- ディスパッチ メッセージを拒否した場合、そのディスパッチ メッセージは Connection によって削除済みアイテム フォルダに移動されません。
- ディスパッチ メッセージが届くと、電話のメッセージ受信インジケータ (MWI) が点灯する場合があります。他の受信者がディスパッチ メッセージを受け入れた場合、Connection によって自分のメールボックスからメッセージが削除された後に、MWI が消灯します。メッセージが削除されてから MWI が消灯するまでの間には時間差が発生する場合があります。MWI に気付いた後に新しいメッセージが見つからない場合は、この時間差の間にチェックしたことが原因である可能性があります。
- ディスパッチ メッセージを含めるようにメッセージ通知規則を設定している場合、通知を受け取り、メッセージを取得するためにコールするまでには、別のユーザがすでにメッセージを受け入れているために、このメッセージがユーザのメールボックスから削除されている可能性があることに注意してください。

電話のキーボードを使用してディスパッチ メッセージを管理するには

ディスパッチ メッセージを再生した後、指示に従ってメッセージを受け入れるか、拒否するか、先送りにします。

ボイス コマンドを使用してディスパッチ メッセージを管理するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Dispatch messages」

ステップ 3 ディスパッチ メッセージを再生した後、指示に従い、次のボイス コマンドを使用してメッセージを管理します。

アクション	ボイス コマンド
メッセージを受信	「Accept」
メッセージを拒否	「Decline」
メッセージの先送り	「Postpone」



ボイス コマンドを使用した電話の発信

相手の名前または内線番号を発音することによって、別の Cisco Unity Connection ユーザに電話を発信することができます。たとえば、「Call Harriet Smith」と発音すると、Connection が Harriet の内線番号を企業ディレクトリで検索し、電話を発信します。

ボイス コマンドを使用して電話を発信するには、Connection にログオンしている必要があります。

名前または内線番号を発音すると、一致する名前または内線番号が Connection によって再生され、電話が発信されます。要求された名前または内線番号に一致するものが複数検出された場合、Connection は、最初に一致したものを再生し、相手が正しいかどうかを確認するようユーザに要求します。正しくない場合は、「No」と言います。引き続き、Connection が一致する他の相手を再生します。

ボイス コマンドを使用して電話を発信するには

ステップ 1 Connection にログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

Connection ユーザに電話を発信するには、「Call <名前 / 代行ユーザ名>」と発音します（たとえば、「Call Frank Edwards」）。

または、

Connection 内線番号に発信するには、「Call <番号>」と発音します。数字は、1 桁ずつ個別に発音します（たとえば、内線番号 12345 の場合は、「Call one two three four five」と発音し、「Call twelve three forty-five」とは発音しないでください）。

または、

連絡先の特定の番号に発信するには、「Call <名前 / 代行ユーザ名> at <home/work/mobile>」と発音します（たとえば、「Call Bob on his mobile」または「Call Service Department at work」と発音します）。

ステップ 3 Connection が呼び出す相手の名前または番号を再生したら、「Cancel」と発音することで、システムへの接続を維持したまま最後のアクションを停止することができます。



会議の管理

- [31 ページの「会議の管理について」](#)
- [32 ページの「予定されている会議の一覧表示」](#)
- [33 ページの「Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時会議の開始」](#)

会議の管理について

Microsoft Outlook、Cisco Unified MeetingPlace、または Cisco Unified MeetingPlace Express でスケジュールされている予定と会議を確認できます。

会議を管理するために実行できるその他のアクションには次のものがあります。

- 会議への招待の受け入れまたは拒否。
- 進行中の会議への参加。
- 会議の参加者の一覧表示。
- 会議への招待の詳細情報の再生。
- 会議開催者へのメッセージの送信。
- 会議参加者へのメッセージの送信。
- 会議のキャンセル（会議開催者のみ）。
- Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時会議の開始。

予定されている会議の一覧表示

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して
いるかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して予定されている会議を一覧表示するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[会議] オプションを選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、会議の一覧を再生する時間帯を定義します。
- ステップ 4** 各会議が一覧表示されたら、指示に従って、会議についての詳細情報の取得、会議への参加、参加者の一覧表示、開催者へのメッセージの送信、会議参加者へのメッセージの送信、会議への招待の受け入れ、または会議への招待の拒否を行います。会議の開催者は、会議をキャンセルするオプションも選択できます。
-

ボイス コマンドを使用して予定されている会議を一覧表示するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Play Meetings」または「List Meetings」と発音して、現在および将来のすべての会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。
または、
「Play Meetings on <日付>」または「List Meetings on <日付>」と発音して、特定の期間の会議の時刻、会議の開催者、および件名を一覧表示します。
- ステップ 3** 説明の再生後に会議を管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	ボイス コマンド
Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express の会議に参加する	「Join」
参加者のリストを再生する	「List participants」
会議リマインダから詳細情報を再生する	「Details」
会議開催者に送信するメッセージを録音する	「Send message to organizer」
会議参加者に送信するメッセージを録音する	「Send message to participants」
予定表に含まれる次の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Next」
予定表に含まれる前の会議の時刻、会議開催者、および件名を再生する	「Previous」
会議への招待を受け入れる	「Accept」
会議への招待を拒否する	「Decline」
会議をキャンセルする（会議開催者のみ）	「Cancel meeting」

Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時会議の開始

Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express で即時会議を開始し、Cisco Unity Connection を介して会議に参加することができます。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して即時会議を開始するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[会議] > [会議を開催] オプションを選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。
-

ボイス コマンドを使用して即時会議を開始するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Start Meeting」
 - ステップ 3** 指示に従って、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express の即時会議を現在の時刻に設定し、参加します。
-



ファックスの管理

- [35 ページの「ファックス オプションについて」](#)
- [36 ページの「ファックスの一覧表示」](#)
- [37 ページの「ファックス配信電話番号の変更」](#)

ファックス オプションについて

ファックス オプションを使用すると、次のようにファックスを管理できます。

- 受信したファックスを一覧表示します。送信者、日付、時刻など、ファックス メッセージのプロパティだけが Cisco Unity Connection によって再生されます。
- 受信したファックスを別の Connection ユーザ、連絡先、または同報リストに転送します。
- 受信したファックスをファックス機に転送して印刷します。
- ファックス転送番号（印刷のためにファックスを送信するファックス機の電話番号）を変更します。



(注) コンピュータ上のファイルからファックスを作成することはできません。

ファックスの一覧表示

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して
いるかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してファックスを一覧表示するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[新しいメッセージ] オプションを選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、ファックスを管理します。
-

ボイス コマンドを使用してファックスを一覧表示するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 受信した新しいファックスを一覧表示するには、「Play New Fax Messages」と発音します。
- または、
- 受信した新しいファックスと古いファックスの両方を一覧表示するには、「Play Faxes」と発音します。
- ステップ 3** 説明の再生後にファックスを管理するには、指示に従って次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド
印刷のためにファックスをファックス機に送信する	「Fax」
ファックスの送信者と送信時刻を再生する	「Message properties」
ファックスを Connection ユーザ、連絡先、または同報リストに転送する	「Forward」
ファックスに返信する（Connection ユーザ、連絡先、または同報リストから送信された場合のみ）	「Reply」
次のファックスを再生する	「Next」
前のファックスを再生する	「Previous」

ファックス配信電話番号の変更

ファックス転送番号とは、印刷のためにファックスを送信するファックス機の電話番号です。

ファックス転送番号を指定するには、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば9）から入力します。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイスコマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してファックス転送電話番号を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション]>[メッセージ設定]>[ファックスの設定]の順に選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、ファックス転送電話番号を入力します。
-

ボイスコマンドを使用してファックス転送電話番号を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[設定オプション]>[ファックスの設定]の順に選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、ファックス転送電話番号を入力します。



ヒント インプットスタイルをボイスコマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



パーソナル グリーティングの管理

- [40 ページの「パーソナル グリーティングについて」](#)
- [42 ページの「現在のグリーティングの再録音」](#)
- [43 ページの「オプション グリーティングのオンまたはオフ」](#)
- [44 ページの「グリーティングの変更」](#)
- [46 ページの「すべてのグリーティングの再生」](#)
- [47 ページの「多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音」](#)

パーソナル グリーティングについて

Cisco Unity Connection では、パーソナル グリーティングを最大 6 つ録音できます。グリーティングは必要な数だけ有効にすることができます。また、グリーティングの使用期間も指定できます。

多言語システムの場合、複数の言語（システム上で利用可能なデフォルト言語と他の言語）でパーソナル グリーティングを再生するオプションを選択できます。デフォルト以外の言語のグリーティングを管理するには、電話のキーパッドを使用します。ボイス コマンドは使用できません。

この項では、使用可能なパーソナル グリーティングについて説明しています。Connection では、有効にしたグリーティングが適切な状況で再生されます。ただし、一部のグリーティングは他のグリーティングより優先されます。

標準グリーティング

このグリーティングは、Connection の管理者が指定した会社の勤務時間中、または他のグリーティングがすべて有効ではない状況において再生されます。

設計上、標準グリーティングはオフにすることができません。

時間外グリーティング

Connection の管理者が指定した会社の営業時間外に、特別なグリーティングを再生したい場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「申し訳ありませんが、電話に出ることができません。当社の営業時間は < 時間帯 > です」）。

時間外グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

オプション グリーティング

休暇中などの特別な状況を知らせたい場合は、このグリーティングを特定の期間に有効にします（たとえば、「< 日付 > までオフィスにいません」）。

有効になっている場合、このグリーティングは他のどのグリーティングよりも優先されます。

電話の呼び出し音を鳴らさずにグリーティングを発信者を再生するかどうか、発信者がグリーティングをスキップできるかどうか、およびオプション グリーティングが有効であるときに発信者がメッセージを残せるかどうかは、Connection の管理者が指定します。Cisco Unity Assistant Web ツールの [オプション グリーティング] ページには、管理者が使用可能にしている発信者オプションが示されます（ある場合）。外部の発信者や他の Connection ユーザが内線をダイヤルして直接電話をかけた場合、発信者オプションは適用されません。



ヒント

他の Connection ユーザが電話でメッセージを送信する場合、そのユーザに対してはオプション グリーティングが再生されません。オプション グリーティングを有効にするときは、自分の名前だけでなく、自分が不在であることを示す情報を録音名に含めるようにすることも検討してください。録音名は、他のユーザがメッセージの宛先として自分を指定したときや、ディレクトリで自分を検索したときに再生されます（63 ページの「録音名の変更」を参照してください）。

電話で Connection にログオンした後、オプション グリーティングが有効になっていることを知らせるプロンプトが再生されることもあります。

通話中グリーティング

通話中であることを発信者に知らせたい場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「現在別の電話に出ています。メッセージを残してください」）。

通話中グリーティングが有効になっていると、通話中の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティング、時間外グリーティング、内線グリーティングより優先されます。

一部の電話機では Connection の通話中グリーティングがサポートされない場合があるので注意してください。詳細については、Connection の管理者に問い合わせてください。

内線グリーティング

同僚に知らせたい情報を提供する場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日の正午まで会議室 B にいます」）。

有効になっている場合、内線グリーティングは標準グリーティングおよび時間外グリーティングより優先されます。また、内線グリーティングは、電話に応答しない場合に社内の発信者に対してのみ再生されます。

一部の電話機では内線グリーティングがサポートされない場合があるので注意してください。詳細については、Connection の管理者に問い合わせてください。

祝日グリーティング

祝日に特別なグリーティングを再生する必要がある場合は、このグリーティングを有効にします（たとえば、「本日は祝日でございますので、電話に出ることができません。<日付> ~ <日付>までオフィスにいません」）。

祝日グリーティングが有効になっていると、営業時間外の場合に限り、このグリーティングが標準グリーティングより優先されます。

現在のグリーティングの再録音

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して
いるかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して現在のグリーティングを再録音するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション]>[グリーティング]を選択
します。
- または、
- 多言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション]>[グリーティング]>[< 現在
のグリーティングを再録音するために使用する言語 >]を選択します。
- ステップ 3** Connection によって現在のグリーティングが再生された後、指示に従って再録音します。
- 録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音
の状態にします。
-

電話でボイス コマンドを使用して現在のグリーティングを再録音するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「Record my <グリーティング名> greeting」
- ステップ 3** 録音が終了したら、# を押します。
-

オプショングリーティングのオンまたはオフ

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイスコマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してオプショングリーティングをオンまたはオフにするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]>[グリーティング]を選択します。
- または、
- 多言語システムの場合は、メインメニューで、[設定オプション]>[グリーティング]>[<オンまたはオフにするオプショングリーティングに該当する言語>]を選択します。
- ステップ 3** #を押して、現在のグリーティングの再生をスキップします。
- ステップ 4** 指示に従って、オプショングリーティングをオンまたはオフにします。
- ステップ 5** オプショングリーティングをオンにした場合は、指示に従って、いつオフにするのかを設定するか、無期限にオンのままにしておきます。
-

ボイスコマンドを使用してオプショングリーティングをオンまたはオフにするには


-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
- 「Turn on my alternate greeting」(グリーティングは無期限にオンのままになります) または「Turn on alternate greeting until <日付> at <時刻>」
- または、
- 「Turn off my alternate greeting」
-

グリーティングの変更

パーソナル グリーティングを有効にするときは、その有効期限を指定します。Cisco Unity Connection は、指定された日時になるまで、グリーティングを適切な状況で再生します。その後、グリーティングは自動的に無効になります。たとえば、オプション グリーティングを設定して、休暇から戻ってきた日に再生を止めることができます。

グリーティングは無期限に再生するように設定することもできます。これは、通話中グリーティングや時間外グリーティングを有効にするときに便利です。

次のいずれかを選択して、グリーティングが有効であるときに発信者に対して再生する内容を指定します。

このグリーティングを録音しなおす	Connection によって、ユーザが録音したグリーティングが再生されません。
	
	(注) グリーティングを録音しただけでは、そのグリーティングは有効になりません。
システム グリーティング	Connection によって、あらかじめ録音されているグリーティングが、録音名とともに再生されます (たとえば、「申し訳ありません。<ユーザ名> は電話に出られません」)。録音名が登録されていない場合は、Connection がテキスト / スピーチ機能を使用して表示名を読み上げます。まだ録音されていないグリーティングを有効にした場合は、あらかじめ録音されているシステム グリーティングが再生されます。

グリーティングはいつでも無効にすることができます。グリーティングを無効にすると、録音を消去しなくても、そのグリーティングは再生されなくなります。



ヒント

パーソナル グリーティングを録音した後でシステム グリーティングを使用するように設定した場合、録音したグリーティングは電話で使用できなくなります。新しいパーソナル グリーティングを録音して有効にする必要があります。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してグリーティングを変更するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション] > [グリーティング] を選択します。

または、
多言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション] > [グリーティング] > [< 変更するグリーティングに該当する言語 >] を選択します。
- ステップ 3** Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。

ステップ 4 指示に従って、変更するグリーティングを選択してから変更を行います。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ボイス コマンドを使用してグリーティングを変更するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のコマンドを使用してグリーティングを変更し、追加の指示が再生されたらそれに従います。

アクション	ボイス コマンド
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」
特定のグリーティングを再生する	「Play < グリーティング名 > greeting」
標準グリーティングを録音または再録音する	「Record my greeting」
時間外グリーティング、オプショングリーティング、通話中グリーティング、内線グリーティング、または祝日グリーティングを録音または再録音する	「Record my < グリーティング名 > greeting」
標準グリーティングとしてシステム グリーティングを使用する	「Use my default greeting」
特定のグリーティングとしてシステム グリーティングを使用する	「Use default < グリーティング名 > greeting」
グリーティングとして何も使用しない (発信者にはメッセージを残すように合図する 発信音のみが再生されます)	「Play nothing for my < グリーティング名 > greeting」
無期限にグリーティングを有効にする	「Turn on < グリーティング名 > greeting」
特定の日時までグリーティングを有効にする	「Turn on < グリーティング名 > greeting until < 日付 > at < 時刻 >」
グリーティングを無効にする	「Turn off < グリーティング名 > greeting」
ヘルプ	「Greetings Help」

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

すべてのグリーティングの再生

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して
いるかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してすべてのグリーティングを再生するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** 単一言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション] > [グリーティング] > [全てのグリーティングを再生する] を選択します。

または、

多言語システムの場合は、メイン メニューで、[設定オプション] > [グリーティング] > [< グリーティングを再生するときに使用する言語 >] > [全てのグリーティングを再生する] を選択します。

Connection が 6 つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。

ボイス コマンドを使用してすべてのグリーティングを再生するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Play all greetings」

Connection が 6 つのグリーティングすべてを、現在のグリーティングから順に再生します。グリーティングごとに、Connection はグリーティングがオンかオフかを通知します。

多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音

多言語システムの場合、複数の言語でグリーティングを再生するオプションを選択できます。たとえば、Cisco Unity Connection がフランス語とスペイン語でプロンプトを再生するように設定されている場合、標準グリーティングを両方の言語で録音して、スペイン語を話す発信者とフランス語を話す発信者にそれぞれの言語でグリーティングを再生することができます。

システムに対応する言語でグリーティングが録音されていない場合、Connection は、その言語に関連付けられた通話に対してシステム グリーティングを再生します。たとえば、標準グリーティングをスペイン語ではなくフランス語で録音した場合、スペイン語を話す発信者に対してはシステム グリーティングが再生され、フランス語を話す発信者に対してはユーザが録音したフランス語のグリーティングが再生されます。

録音するグリーティングの言語を選択すると、Connection は同じ言語で [グリーティング] メニュー オプションを再生します。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して追加言語のグリーティングを録音するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [グリーティング] > [< 録音するグリーティングに該当する言語 >] を選択します。
- ステップ 3** Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。
- ステップ 4** 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

ボイス コマンドを使用して追加言語のグリーティングを録音するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[グリーティング] > [< 録音するグリーティングに該当する言語 >] を選択します。
- ステップ 4** Connection が現在のグリーティングを再生します。再生をスキップするには、# を押します。
- ステップ 5** 指示に従って、録音するグリーティングを選択して録音します。

■ 多言語システムでの追加言語のグリーティングの録音

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



メッセージの到着通知設定の変更

- [49 ページの「メッセージの到着通知について」](#)
- [50 ページの「デバイスへの通知のオンまたはオフ」](#)
- [51 ページの「通知先電話番号の変更」](#)

メッセージの到着通知について

Cisco Unity Connection では、新しいメッセージが到着したことを通知するために、電話またはポケットベルを呼び出すことができます。

通知のオンとオフを切り替えるだけでなく、自宅の電話、職場の電話、携帯電話、ポケットベルなどの通知先電話番号を変更することもできます。



(注)

Cisco Unity Assistant Web ツールを使用している場合は、さらに多くのオプションや通知デバイスを使用できます。Cisco Unity Assistant のヘルプを参照してください。

デバイスへの通知のオンまたはオフ

自宅の電話、職場の電話、携帯電話、ポケットベルに対する通知のオンとオフを切り替えることができます。通知デバイスをオフにしても、その設定は削除されません。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してデバイスへの通知をオンまたはオフにするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [メッセージの通知] を選択します。
 - ステップ 3** 現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。
-

ボイス コマンドを使用してデバイスへの通知をオンまたはオフにするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定] > [メッセージの通知] を選択します。
 - ステップ 4** 現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話への通知をオンまたはオフにします。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

通知先電話番号の変更

自宅の電話、職場の電話、携帯電話、およびポケットベルの通知先番号を変更できます。

電話番号を入力するときは、番号の間にスペース、ダッシュ、またはカッコを使用しないでください。外線通話に必要なアクセスコード（たとえば9）から入力を始めます。必要に応じて、シャープ記号（#）を使用して1秒のポーズを追加します。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して通知先電話番号を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [メッセージの通知] を選択します。
 - ステップ 3** 現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。

メッセージ通知に社内の電話番号を使用する場合は、内線番号だけを入力します。

ボイス コマンドを使用して通知先電話番号を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定] > [メッセージの通知] を選択します。
 - ステップ 4** 現在の通知の状態がアナウンスされた後、指示に従ってポケットベル、自宅の電話、職場の電話、または携帯電話の通知先電話番号を変更します。

メッセージ通知に社内の電話番号を使用する場合は、内線番号だけを入力します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



プライベート同報リスト設定の変更

- [53 ページの「プライベート同報リストについて」](#)
- [54 ページの「プライベート同報リストの作成」](#)
- [56 ページの「プライベート同報リストのメンバーの変更」](#)
- [58 ページの「プライベート同報リストの録音名の変更」](#)
- [58 ページの「プライベート同報リストの削除」](#)

プライベート同報リストについて

プライベート同報リストを使用して、ボイス メッセージ受信者のグループを独自に作成できます。ボイス メッセージの宛先にプライベート同報リストを指定すると、そのリストに記載されている全受信者がそのボイス メッセージを受信します。Cisco Unity Connection には、個人用に使用できるプライベート同報リストがいくつか用意されています。

プライベート同報リストにボイス メッセージを送信できるのは、そのリストの所有者だけです。これを行うには、電話のキーパッドまたはボイス コマンドを使用します。電子メール アプリケーションでは、メッセージをプライベート同報リストに送ることはできません。

プライベート同報リストの作成

管理できるリストの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。



(注) 電話を使用して新しいプライベート同報リストを作成することもできますが、Cisco Unity Assistant Web ツールで作成の方が簡単です。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーボードとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーボードを使用してプライベート同報リストを作成するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [プライベート同報リスト] > [プライベート同報リストの設定状況を確認する] を選択します。
- ステップ 3** 空のプライベート同報リストの番号を確認します。
- ステップ 4** [リストの編集] オプションを選択し、空のリストの番号を入力します。
- ステップ 5** 「プライベート同報リスト < 番号 >」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。
- ステップ 6** 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する] オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。

ボイス コマンドを使用してプライベート同報リストを作成するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーボードに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーボードで、[メッセージ設定] > [プライベート同報リスト] > [プライベート同報リストの設定状況を確認する] の順に選択します。
- ステップ 4** 空のプライベート同報リストの番号を確認します。
- ステップ 5** [リストの編集] オプションを選択し、空のリストの番号を入力します。
- ステップ 6** 「プライベート同報リスト < 番号 >」というアナウンスの後、指示に従ってリストに名前を追加します。

ステップ7 名前の追加が終了したら、[リストの名前をもう一度録音する] オプションを選択し、指示に従ってリスト名を録音します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

プライベート同報リストのメンバーの変更

プライベート同報リストに追加できるメンバーの最大数は、Cisco Unity Connection の管理者が指定します。ディレクトリ内のユーザまたはシステム同報リストはすべて、プライベート同報リストのメンバーとして指定できます。

Connection の設定状況によっては、ディレクトリ外のリモートボイスメッセージシステム上のユーザにメッセージを送信したり返信したりできる場合があります。その場合は、リモート連絡先であるこれらのユーザを、プライベート同報リストに含めることもできます。

すでにプライベート同報リストのメンバーとなっているユーザ、システム同報リスト、またはリモート連絡先を追加しようとしても、Connection では、そのメンバーを同じリストに再度追加することはできません。

プライベート同報リストでは、メンバーの追加、確認、削除が可能です。



(注) プライベート同報リストのメンバーに対して管理上の変更が行われた場合、後でリストを確認するときにメンバーが異なって表示されることがあります。ときには、管理上の変更によって、一部のメンバーが予告なくリストから削除される場合もあります。Connection の管理者は、変更が発生する前にユーザに通知できるはずですが、それでも、誤ってメンバーが削除された場合は、ユーザがこれらのメンバーをもう一度リストに追加します。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーボードとボイスコマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーボードを使用してプライベート同報リストのメンバーを変更するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メインメニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [プライベート同報リスト] > [宛先の変更] を選択します。
- ステップ 3** 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。



ヒント リストのメンバーを確認する際には、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには 3 を押します。前の名前に戻するには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻するには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

ボイスコマンドを使用してプライベート同報リストのメンバーを変更するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーボードに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[メッセージ設定]>[プライベート同報リスト]>[宛先の変更]の順に選択します。

ステップ 4 指示に従ってメンバーを変更するリストを選択し、メンバーを追加、確認、または削除します。

**ヒント**

リストのメンバーを確認するには、それぞれのメンバーをすばやく選択できます。リストから受信者を削除するには 3 を押します。前の名前に戻るには 7 を押します。次の名前に進むには 9 を押します。リストの先頭に戻るには 77 を押します。リストの最後に進むには 99 を押します。

**ヒント**

入力スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

プライベート同報リストの録音名の変更

各プライベート同報リストには、録音名があります。メッセージの宛先としてプライベート同報リストを指定した場合、Cisco Unity Connection は、正しいリストが指定されたことを確認できるように、そのリストの録音名を再生します。


この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してプライベート同報リストの録音名を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [プライベート同報リスト] > [宛先の変更] を選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します (選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください)。
-

ボイス コマンドを使用してプライベート同報リストの録音名を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定] > [プライベート同報リスト] > [宛先の変更] の順に選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って録音名を変更するリストを選択し、名前を再録音します (選択したリストにメンバーが存在しない場合は、メンバーを追加してからリストの名前を録音する必要があるので注意してください)。

 **ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

プライベート同報リストの削除

電話を使用して、リストの個々のメンバーを削除することはできますが、リスト自体は削除できません。リスト自体を削除することによって、録音名とすべてのメンバーを一度に削除するには、Cisco Unity Assistant Web ツールを使用します。



アドレス指定優先順位リストの管理

- [59 ページの「アドレス指定優先順位リストについて」](#)
- [60 ページの「アドレス指定優先順位リストの変更」](#)

アドレス指定優先順位リストについて

名前の一部を入力することによってメッセージの宛先を指定する場合、入力した値に一致する名前が複数見つかることがあります。デフォルトでは、検索結果は姓（同報リストの場合は、表示名）のアルファベット順で並べ替えられます。

Connection では、適切な受信者をすばやく見つけて選択できるように、アドレス指定優先順位リストで定義された特定の受信者が最初に表示されます。また、メッセージの宛先として指定した受信者をアドレス指定優先順位リストへ自動的に追加することもでき、メッセージの受信者として指定する頻度に基づいて、リスト内の名前の優先順位を変更することもできます。



(注) アドレス指定優先順位リストの確認と変更を行えるかどうか、または使用頻度に応じて自動的に受信者名をリストに追加するかどうかは、Connection の管理者によって決定されます。

ボイス コマンドを使用してメッセージの受信者を指定する場合は、指定した名前と発音的に近い名前がディレクトリから検索されます。アドレス指定優先順位リストを定義すると、そのリスト内で発音的に近い名前が検索結果に含まれる可能性が高くなります。この場合、アドレス指定優先順位リストによって検索結果に表示される名前の順序が影響を受けることはありません。検索結果は、ユーザが発音した名前と検出された名前の発音上の一致レベルに基づいて表示されます。

アドレス指定優先順位リストの変更

アドレス指定優先順位リストでは、ユーザ、連絡先、同報リストを追加したり、内容を確認したり、名前を削除したりすることができます。アドレス指定優先順位リストには、メッセージ宛先指定履歴に基づいて自動的に追加された名前が含まれることもあります。


この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してアドレス指定優先順位リストを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [メッセージ設定] > [アドレス指定優先順位リスト] の順に選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、アドレス指定優先順位リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。

ボイス コマンドを使用してアドレス指定優先順位リストを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定] > [アドレス指定優先順位リスト] を選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、アドレス指定優先順位リストのメンバーの追加、確認、削除を行います。名前を確認する場合は、姓（ユーザと連絡先の場合）または表示名（同報リストの場合）のアルファベット順で表示されます。

 **ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



個人設定の変更

- [61 ページの「個人設定について」](#)
- [62 ページの「電話パスワードの変更」](#)
- [63 ページの「録音名の変更」](#)
- [64 ページの「ディレクトリ一覧ステータスの変更」](#)

個人設定について

個人設定では、Cisco Unity Connection システム上におけるユーザ情報と、システムとの対話に関するオプションが管理されます。

電話パスワードの変更

Cisco Unity Connection の電話パスワードは、メッセージのプライバシーを保護します。また、不正アクセスからメールボックスを保護します。電話パスワードはいつでも変更できます。

電話パスワードを変更する際には、Connection 管理者から提供されるセキュリティ ガイドラインに従ってください。一般に、パスワードは短い方が便利ですが、長くて複雑なパスワードを指定した方がより安全です。複雑なパスワードとは、次の条件に一致するパスワードです。

- プライマリ内線番号やそれを逆にしたものを含めることはできない。
- 少なくとも 3 つの異なる数字が必要。
- 昇順また降順で連続する数字（たとえば 12345 や 54321）を使用することはできない。
- 数字は 3 回以上続けて使用できない（たとえば 14777）。
- 3 桁以上の数字を繰り返し使用することはできない（たとえば 408510408）。
- 名、姓、またはそれらの組み合わせを数値に直して使用することはできない（たとえば、名前が John Doe の場合、johnd、johndoe、jdoe、または doe を数字に直して使用することはできない）。


この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して電話パスワードを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [個人設定] > [パスワード] の順に選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0 ~ 9 の数字を使用します。

ボイス コマンドを使用して電話パスワードを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[個人設定] > [パスワード] を選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、新しいパスワードを入力し、確認します。0 ~ 9 の数字を使用します。

 **ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

録音名の変更

録音名は、他のユーザに残したメッセージとともに再生され、ディレクトリではその名前でユーザが識別されます。また、独自の録音の代わりにシステム録音を使用したグリーティングとともに再生することもできます。



ヒント

他の Cisco Unity Connection ユーザが電話でメッセージを送信する場合、そのユーザに対してはオプション グリーティングが再生されません。オプション グリーティングを使用可能にするときは、録音名を変更して、不在であることを示す情報を追加することを検討してください。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して録音名を変更するには

- ステップ 1** Connection にログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [個人設定] > [録音された名前] を選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、名前または短いメッセージを録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。

ボイス コマンドを使用して録音名を変更するには

- ステップ 1** Connection にログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[個人設定] > [録音された名前] を選択します。
- ステップ 4** 指示に従って、名前または短いメッセージを録音します。

録音を一時停止または再開するには、8 を押します。録音を終了するには、# を押すか、数秒間無音の状態にします。



ヒント

インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで* を押し続けます。

ディレクトリー一覧ステータスの変更

自分自身をディレクトリーに登録するかどうかは選択できます。ディレクトリーに登録しておく、自分の内線番号を知らない他のユーザが、ディレクトリーで自分の名前を検索することによって、連絡を取ることができるようになります。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してディレクトリー一覧ステータスを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [個人設定] > [ディレクトリー一覧] を選択します。ディレクトリーに登録されているかどうか Connection によってアナウンスされます。
 - ステップ 3** 指示に従って、一覧ステータスを変更します。
-

ボイス コマンドを使用してディレクトリー一覧ステータスを変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[個人設定] > [ディレクトリー一覧] を選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、一覧ステータスを変更します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



Connection カンパセーションのメニュー スタイルの変更

電話のキーパッドを使用して Cisco Unity Connection と対話する場合は、標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスのいずれかを聞くことができます。標準ガイダンスは理解しやすいインストラクションを提供するものであり、簡易ガイダンスは標準ガイダンスの簡易版です。

ボイス コマンドを使用して Connection と対話する場合は、標準ガイダンスが再生されます。


この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して Connection カンパセーションのメニュー スタイルを変更するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] [メッセージ設定] [メニュー スタイル] の順に選択します。
- ステップ 3** 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。

ボイス コマンドを使用して Connection カンパセーションのメニュー スタイルを変更するには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[メッセージ設定] > [メニュー スタイル] を選択します。
- ステップ 4** 指示に従って、標準ガイダンスと簡易ガイダンスを切り替えます。

 **ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



着信転送設定の変更

- [67 ページの「着信転送ルールについて」](#)
- [68 ページの「着信転送ルールの設定の変更」](#)

着信転送ルールについて

着信転送ルールは、間接的な着信コールを Cisco Unity Connection でどのように処理するかを制御します。間接的なコールとは、直接ダイヤルしていない発信者からのコールを指します（たとえば、ディレクトリを使用して発信されたコールなど）。直接的なコール（外部の発信者または他のユーザが個人の電話番号を直接ダイヤルして発信したコール）に対しては、Connection の転送ルールの設定は適用されません。

間接的なコールに応答するか、ボイスメールへ即時に転送するかは選択できます。



ヒント

自分の内線番号への直接的なコールに対する着信転送を設定するには、Connection の管理者に問い合せてください。自席の電話だけでなく、社内で使用する電話システムでも、直接コールの管理に使用できる転送機能を使用できる場合があります。

この項では、使用可能な転送ルールとその動作について説明します。Connection では、有効にした転送ルールが適切な状況で適用されます。ただし、一部の転送ルールは他の転送ルールより優先されます。

標準転送ルール

この転送ルールは、Connection 管理者が指定した会社の営業時間内に有効になります。有効になっている転送ルールが他にない場合は、営業時間外もこの標準転送ルールが有効になります。

設計上、標準転送ルールは無効にすることができません。

オプション転送ルール

他の転送ルールを特定の期間内だけ優先させる場合は、この転送ルールを有効にします。たとえば、休暇中にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送したり、一時的に別の場所で作業しているときにかかってきた電話を他の内線番号に転送したりすることができます。

オプション転送ルールを有効にすると、そのルールが常に適用されます。オプション転送ルールは他のどの転送ルールよりも優先されます。

時間外転送ルール

Connection 管理者が指定した会社の営業時間外に、異なる転送処理が実行されるようにする場合は、この転送ルールを有効にします（たとえば、営業時間外にかかってきたすべての電話をボイスメールに即時転送することができます）。

有効になっている場合、時間外転送ルールは営業時間外に適用されます。

着信転送ルールの設定の変更

間接的なコールを自分の内線に転送するか、指定した別の内線または電話番号に転送するか、あるいはボイスメールに即時転送するかを選択できます。ボイスメールに転送すると、電話の呼び出し音は鳴りません。ボイスメールに転送するように設定しておく、発信者は電話の応答を待つ必要がなくなり、グリーティングがすぐに再生されます。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して着信転送ルールを設定を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] を選択します。
 - ステップ 3** 設定を変更する転送ルールを選択します。
 - ステップ 4** 現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います。

外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。



(注) 転送先の番号を変更しても、転送先を電話にするか、ボイスメールにするかの設定は変更されません。転送先を電話にするように指定した場合だけ、Connection は転送先の番号にコールを転送します。

ボイス コマンドを使用して着信転送ルールを設定を変更するには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] オプションを選択します。
 - ステップ 4** 設定を変更する転送ルールを選択します。

- ステップ 5** 現在の転送設定がアナウンスされた後、指示に従ってルールの有効と無効の切り替え、転送先の変更（電話またはボイスメール）、または転送先電話番号の変更を行います。

外線に転送する場合は、Connection 管理者に問い合わせてください。



- (注)** 転送先の番号を変更しても、転送先を電話にするか、ボイスメールにするかの設定は変更されません。転送先を電話にするように指定した場合だけ、Connection は転送先の番号にコールを転送します。



- ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。



緊急連絡先番号の管理

- [71 ページの「緊急連絡先番号について」](#)
- [71 ページの「緊急連絡先番号の変更」](#)

緊急連絡先番号について

緊急連絡先番号が設定されている場合、発信者はグリーティングの再生中にキーを押すことによって、別の電話番号にコールを転送することができます。緊急連絡先番号には、オペレータや別のユーザ（上司や同僚）の内線番号だけでなく、対応可能な他のユーザの電話番号も指定できます。

緊急連絡先番号へコールを転送するときに発信者が押すキーは、Cisco Unity Connection 管理者によって指定されます。最大 12 件（キーパッドのキー 1 つに対して 1 件）の緊急連絡先番号を指定できます。

緊急連絡先番号の変更

緊急連絡先番号を指定するには、外線通話に必要なアクセスコード（たとえば 9）から入力を始めます。



ヒント

緊急連絡先番号を指定する場合は、その番号に関する情報をグリーティングに追加しておくことをお勧めします（例：「現在、席を外しております。発信音の後にメッセージを残してください。別の販売担当者に電話をつなぐ場合は 4 を押してください」）。

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して緊急連絡先番号を指定するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 メイン メニューで、[設定オプション] > [緊急連絡先番号] を選択します。



(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが 1 つ以上設定されている場合は、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。

ステップ 3 指示に従って、緊急連絡先番号を指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。

ボイス コマンドを使用して緊急連絡先番号を指定するには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[緊急連絡先番号] オプションを選択します。



(注) 緊急連絡先番号に転送するためのキーが 1 つ以上設定されている場合は、緊急連絡先番号を設定するように Connection から指示されます。

ステップ 4 指示に従って、緊急連絡先番号を指定します。緊急連絡先番号への転送に使用できるキーがアナウンスされます。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



着信コールを処理するパーソナル着信転送ルールの設定の管理

- [73 ページの「パーソナル着信転送ルールについて」](#)
- [74 ページの「基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化」](#)
- [75 ページの「パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化」](#)
- [76 ページの「個々のルール設定の有効化と無効化」](#)
- [78 ページの「\[全て転送 \] ルール設定の使用」](#)
- [80 ページの「Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送」](#)

パーソナル着信転送ルールについて

パーソナル着信転送ルールを設定すると、特定の着信コールを発信者の識別情報、時刻、会議スケジュールなどに基づいて転送したり、ボイスメールや別の電話番号に転送したりすることができます。パーソナル着信転送ルールは基本的な転送ルール（標準、オプション、時間外）よりも高度なルールです。

パーソナル着信転送ルールの設定はパーソナル着信転送ルール Web ツールで管理します。ルール設定を定義した後は、Web ツールまたは電話でルールを有効にできます（パーソナル着信転送ルールの設定の使用法および管理方法については、『User Guide for the Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web Tool』を参照してください）。

基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の有効化と無効化


パーソナル着信転送ルールは、現在アクティブな基本ルール（標準、オプション、時間外）で、基本設定の代わりにパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合に適用されません。

電話のキーパッドを使用して、基本転送ルールでパーソナル着信転送ルールの設定の使用を有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] を選択します。
 - ステップ 3** 転送ルール（標準、オプション、または時間外）を選択します。
 - ステップ 4** Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
 - ステップ 5** 必要に応じて、基本転送ルールごとに**ステップ 3** および**ステップ 4** を繰り返します。
-

ボイス コマンドを使用して、基本転送ルールでパーソナル着信転送ルールの設定の使用を有効または無効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] オプションを選択します。
 - ステップ 4** 転送ルール（標準、オプション、または時間外）を選択します。
 - ステップ 5** Connection によって現在の着信転送の設定がアナウンスされたら、指示に従ってパーソナル着信転送ルールの使用を有効または無効にします。
 - ステップ 6** 必要に応じて、基本転送ルールごとに**ステップ 4** および**ステップ 5** を繰り返します。

 **ヒント** インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで* を押し続けます。

パーソナル着信転送ルール設定の使用の有効化と無効化

有効化とは、基本転送ルール（標準、オプション、時間外）で、基本設定の代わりにパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合に、Connection がパーソナル着信転送ルールの設定を使用して着信コールを処理することを意味します。無効化とは、基本転送ルールでパーソナル着信転送ルールを使用するように指定されている場合でも、Connection がパーソナル着信転送ルールの設定を使用せずに着信コールを処理することを意味します。この場合、着信コールは自分の内線番号に転送されます。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらかを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して、パーソナル着信転送ルール設定の使用を有効または無効にするには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
- ステップ 3** 有効にする場合は、ルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。

無効にする場合は、[転送ルールをキャンセル] オプションを選択します。

ボイス コマンドを使用して、パーソナル着信転送ルール設定の使用を有効または無効にするには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
- ステップ 4** 有効にする場合は、ルールがオフであることがアナウンスされた後、着信転送ルールをオンにするオプションを選択します。

無効にする場合は、[転送ルールをキャンセル] オプションを選択します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

個々のルール設定の有効化と無効化

電話を使用して一度に有効にできるルール設定は1つのみです。ルール設定を有効にすると、すぐにそのルール設定がアクティブになります。Cisco Unity Connection は、無効になっているルール設定がある場合にのみ、ルール設定を有効にするためのプロンプトを再生します。

ルール設定の無効化とは、そのルール設定をアクティブにできなくすることを意味します。Connection は、有効はになっていてもアクティブではないルールがある場合にのみ、ルール設定を無効にするためのプロンプトを再生します。

ルール設定が1つも定義されていない場合、またはアクティブになっていない場合、着信コールは内線に転送されます。

個々の設定の有効化

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してルール設定を有効にするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。



(注) Connection は、パーソナル着信転送ルールの設定が有効になっている場合にのみ、ルール設定を有効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 3 [着信転送のルール設定を有効にする] オプションを選択します。

ステップ 4 指示に従って、ルール設定をアクティブにし、ルール設定をアクティブにする日数を設定します。

ボイス コマンドを使用してルール設定を有効にするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。



(注) Connection は、パーソナル着信転送ルールの設定が有効になっている場合にのみ、ルール設定を有効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 4 [着信転送のルール設定を有効にする] オプションを選択します。

ステップ 5 指示に従って、ルール設定をアクティブにし、ルール設定をアクティブにする日数を設定します。

**ヒント**

インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

個々の設定の無効化

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用してルール設定を無効にするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 メイン メニューで、[設定オプション]>[転送設定]>[個人の着信転送ルール]>[転送ルールをキャンセル]を選択します。



(注) Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルール設定がある場合にのみ、ルール設定を無効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 3 指示に従ってルール設定を無効にします。

ボイス コマンドを使用してルール設定を無効にするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定]>[個人の着信転送ルール]>[転送ルールをキャンセル]を選択します。



(注) Connection は、有効にはなっていないアクティブではないルール設定がある場合にのみ、ルール設定を無効にするためのプロンプトを再生します。

ステップ 4 指示に従ってルール設定を無効にします。

**ヒント**

インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

[全て転送] ルール設定の使用

[全て転送] ルール設定には、指定した期間内のすべての着信コールを特定の通知先に転送する 1 つのルールが含まれています。[全て転送] は、電話で設定する必要がある唯一のルール設定です。Cisco Unity Connection はこのルール設定をアクティブにし、パーソナル着信転送ルール Web ツールの [着信転送ルールの設定] ページに表示します。

[全て転送] を有効にすると、ただちにそのルール設定が、指定した期間のアクティブなルール設定になります。[全て転送] の通知先で、転送された着信コールに対する応答がない場合、Connection はそのコールをボイスメールに転送します。

[全て転送] の有効化

この項では、2 つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して [全て転送] ルール設定を有効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[全て転送] ルール設定をアクティブにする日数を指定します。



ヒント 1 日は午後 11:59 に終わるため、1 日という期間は当日の終わり (午後 11:59) までを指します。2 日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用して [全て転送] ルール設定を有効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、すべての着信コールをボイスメールまたは特定の電話番号に転送するように設定し、[全て転送] ルール設定をアクティブにする日数を指定します。



ヒント 1 日は午後 11:59 に終わるため、1 日という期間は当日の終わり (午後 11:59) までを指します。2 日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

[全て転送] の無効化

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して [全て転送] ルール設定を無効にするには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] > [この番号への全ての転送をキャンセル] を選択します。

ボイス コマンドを使用して [全て転送] ルール設定を無効にするには

- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
- ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」（インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります）。
- ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] > [この番号への全ての転送をキャンセル] を選択します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。

Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送

すべての着信を Cisco Unity Connection に転送して、パーソナル着信転送ルールを即時に適用することができます。このオプションを使用すると、応答がないときにパーソナル着信転送ルールを適用して通知先を検出する前に、内線番号が呼び出されなくなります。

すべての着信の転送の有効化

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して、Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送を有効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
 - ステップ 3** 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。



ヒント 1日は午後 11:59 に終わるため、1日という期間は当日の終わり(午後 11:59)までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。

ボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送を有効にするには

-
- ステップ 1** Connection を呼び出してログオンします。
 - ステップ 2** Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。
「Setup」(インプット スタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。
 - ステップ 3** 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] を選択します。
 - ステップ 4** 指示に従って、Connection へのすべての着信の転送を有効にし、転送をアクティブにする日数を設定します。



ヒント 1日は午後 11:59 に終わるため、1日という期間は当日の終わり(午後 11:59)までを指します。2日間は次の日の終わりまでを指し、以下同様に続きます。期間には 1 ~ 999 の日数を入力できます。



ヒント インプット スタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで * を押し続けます。

すべての着信の転送のキャンセル

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用して
いるかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して、Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送をキャンセルするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 メイン メニューで、[設定オプション] > [転送設定] > [個人の着信転送ルール] > [すべての着信の Cisco Unity Connection への転送をキャンセル] を選択します。

ボイス コマンドを使用して、Cisco Unity Connection へのすべての着信の転送をキャンセルするには

ステップ 1 Connection を呼び出してログオンします。

ステップ 2 Connection から「What do you want to do」と尋ねられたら、次のように発音します。

「Setup」(インプットスタイルが一時的に電話のキーパッドに切り替わります)。

ステップ 3 電話のキーパッドで、[転送設定] > [個人の着信転送ルール] > [すべての着信の Cisco Unity Connection への転送をキャンセル] を選択します。



ヒント インプットスタイルをボイス コマンドに戻すには、「Voice Command Conversation」というプロンプトが聞こえるまで*を押し続けます。



メッセージの再生設定の変更

- [83 ページの「メッセージの再生設定について」](#)
- [83 ページの「個々のメッセージの再生音量の変更」](#)
- [84 ページの「個々のメッセージの再生速度の変更」](#)

メッセージの再生設定について

再生設定では、メッセージの再生中にメッセージの再生音量と再生速度を調節できます。

個々のメッセージの再生音量の変更

電話で個々のメッセージを聞きながら、そのメッセージの音量を調節できます。この変更は、他のメッセージの再生音量には反映されません。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらを使用しているかに応じて、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して個々のメッセージの再生音量を変更するには

メッセージが再生されている間、次の音量設定の間で切り替えを行えます。

5 を 1 回押す	音量が上がります。
もう 1 回 5 を押す	音量が下がります。
もう 1 回 5 を押す	音量が標準に戻ります。

ボイス コマンドを使用して個々のメッセージの再生音量を変更するには

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド	キー
音量を変更する	「Louder」または「Softer」	5
再生音量をリセットする (一部のシステムでは使用不可)	「Reset volume」	該当なし

個々のメッセージの再生速度の変更

電話で個々のメッセージを聞きながら、そのメッセージの再生速度を調節できます。この変更は、他のメッセージの再生速度には反映されません。

この項では、2つの手順を示しています。電話のキーパッドとボイス コマンドのどちらかを使用して、適切な手順を実行してください。

電話のキーパッドを使用して個々のメッセージの再生速度を変更するには

メッセージが再生されている間、次の速度設定の間で切り替えを行えます。

4 を 1 回押す	低速で再生します。
もう 1 回 4 を押す	より低速で再生します。
6 を 1 回押す	高速で再生します。
もう 1 回 6 を押す	より高速で再生します。

ボイス コマンドを使用して個々のメッセージの再生速度を変更するには

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを使用します。

アクション	コマンド	キー
再生速度を下げる	「Slower」	4
再生速度を上げる	「Faster」	6
再生速度をリセットする	「Reset speed」	該当なし



ブロードキャスト メッセージ

社内の Cisco Unity Connection 管理者、ネットワーク管理者、経営者から、ブロードキャストメッセージと呼ばれるボイスメッセージを受信することがあります。ブロードキャストメッセージとは、社内の全員に送信される録音済みの通知です。たとえば、Connection 管理者がすべてのユーザーに電話のパスワードを変更するよう求めるメッセージを送信したり、人事部長が新しい手当の締め切りについて案内するメッセージを送信したりできます。

ブロードキャストメッセージは、電話を使用して Connection にログオンすると、すぐに再生されます。すべてのブロードキャストメッセージを完全に聞くまでは、Connection で新しいメッセージや保存されたメッセージを確認したり、セットアップ オプションを変更することはできません。ブロードキャストメッセージは、一度再生すると完全に削除されます。ブロードキャストメッセージに返信することはできず、ブロードキャストメッセージを保存することもできません。

ブロードキャストメッセージが届いても、電話機のメッセージ受信インジケータは点灯しません（たとえば、ライトが点灯することも、受話器を取り上げたときに特別なダイヤル トーンが再生されることもありません）。

音声認識オプションを使用している場合、ボイス コマンドを使用してブロードキャストメッセージを削除することはできません。代わりに、メッセージの再生が終了すると、# を押すよう求められます。メッセージが削除されたら、引き続きボイス コマンドを使用して、他のメッセージを再生および管理することができます。



メールボックスのサイズの管理

- [87 ページの「メールボックスのサイズについて」](#)
- [88 ページの「メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由」](#)

メールボックスのサイズについて

メールボックスが一杯になっていると、Cisco Unity Connection がメッセージを処理するスピードに影響を及ぼす場合があります。電話機を使用してログオンするとき、メールボックスが次の状態の場合は、Connection によって通知されます。

- ほとんど一杯である。
- 一杯であり、新しいメッセージは送信できない。
- 一杯であり、新しいメッセージは送信も受信もできない。

メールボックスの容量制限は、Connection 管理者により設定されます。その制限を超過すると、メッセージを送信および受信できなくなる場合があります。



(注) ブロードキャストメッセージはメールボックス全体のサイズに含まれません。

メールボックスがすぐに一杯になってしまう理由

この項では、Cisco Unity Connection のメールボックスが予想よりも早く一杯になってしまう場合に考えられる原因について説明します(メールボックスのサイズは Connection 管理者によって指定されます)。

メッセージ保存ポリシーが適用されていない可能性がある

Connection のデフォルト設定では、一定の経過時間に達した場合にメッセージを自動的に削除することはありません。つまり、Connection 管理者がメッセージ保存ポリシーを適用するようにシステムを設定しない限りは、ユーザ自身が定期的に関済済みメッセージを確認し、メッセージを移動、アーカイブ、または完全に削除することによって、メールボックスのサイズを管理する必要があります。

メッセージ保存ポリシーを適用するように Connection が設定されている場合は、Connection 管理者に、メッセージが完全に削除されるまでの期間を確認してください。これにより、あらかじめ重要なメッセージをアーカイブまたは移動しておくことができます。Connection は、メッセージ保存ポリシーが適用されることを通知しません。また、このポリシーを実行した結果、メッセージが完全に削除されることも警告しません。

不達確認がメールボックス全体のサイズに含まれる

送信済みメッセージの不達確認 (NDR) を受信した場合、特に元のメッセージに大きなファイルが添付されていると、メールボックスのサイズはすぐに大きくなります。

メッセージの転送時に元のメッセージがメッセージ全体のサイズに含まれる

転送の繰り返しによってサイズが増えたメッセージを受け取る場合があります。元のメッセージと、転送時に追加される音声コメントが、メッセージ全体のサイズです。このため、保存しているメッセージ数が比較的少なくても、メールボックスの制限を超えてしまうことがあります。



Cisco Unity Connection の 電話メニューとボイス コマンド

この章では、電話でメッセージおよび個人用オプションを管理するために最も頻繁に使用されるボイス コマンド、メニュー、およびショートカットについて、Cisco Unity Connection ガイダンスのバージョンごとに説明します。どのガイダンス バージョンを使うよう設定されているかについては、Connection の管理者に問い合せてください。

- [90 ページの「標準カンパセーション用電話メニュー」](#)
- [93 ページの「クラシック カンパセーション用電話メニュー」](#)
- [96 ページの「オプション カンパセーション 1 用電話メニュー」](#)
- [99 ページの「代行キーパッドマッピング N 用電話メニュー」](#)
- [101 ページの「代行キーパッドマッピング X 用電話メニュー」](#)
- [103 ページの「代行キーパッドマッピング S 用電話メニュー」](#)
- [105 ページの「ボイス コマンド」](#)

標準カンパセーション用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 90 ページの「メイン メニューとショートカット (標準カンパセーション)」
- 91 ページの「メッセージ送信のメニューとショートカット (標準カンパセーション)」
- 91 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (標準カンパセーション)」
- 92 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (標準カンパセーション)」
- 92 ページの「録音メニュー (標準カンパセーション)」

メイン メニューとショートカット (標準カンパセーション)

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除されたメッセージを確認する *	3 2
セットアップ オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファックス配信を変更する *	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
電話パスワードを変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	5 3
会議を再生する *	6

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ送信のメニューとショートカット（標準カンパセーション）

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
受信確認の返信を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット（標準カンパセーション）

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号を指定してメッセージを再生する（開封済みメッセージのみ）	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
保存する	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	4 2
送信者に電話を返す	4 4
メッセージを転送する	5
再生速度を下げる	6 4
再生速度を上げる	6 6
音量を変更する *	6 5
音量をデフォルト レベルに戻す *	6 3
メッセージを巻き戻す	7
一時停止 / 再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
緊急ステータスを切り替える	1 8
メッセージをスキップし、開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	# 2
メッセージをスキップし、新規メッセージとして保存 / 復元する *	6
メッセージをスキップしてそのまま保存する	##
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	6 8

■ 標準カンパセーション用電話メニュー

アクション	キー
メッセージ プロパティを再生する	1 5
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生後のメニューとショートカット (標準カンパセーション)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
再度メッセージを再生する	1
番号を指定してメッセージを再生する (開封済みメッセージのみ)	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
緊急ステータスを切り替える	1 8
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す *	4 4
メッセージを転送する	5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	6
巻き戻す	7
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	6 8
メッセージ プロパティを再生する	1 5
そのまま保存する	#
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (標準カンパセーション)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

クラシック カンパセーション用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 93 ページの「メイン メニューとショートカット (クラシック カンパセーション)」
- 94 ページの「メッセージ送信のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)」
- 94 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)」
- 95 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)」
- 95 ページの「録音メニュー (クラシック カンパセーション)」

メイン メニューとショートカット (クラシック カンパセーション)

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除されたメッセージを確認する *	3 2
セットアップ オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
他のグリーティングを編集する	4 1 3
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファックス配信を変更する *	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
電話パスワードを変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	5 3
会議を再生する *	6

* 一部のシステムでは使用不可。

■ クラシック カンパセーション用電話メニュー

メッセージ送信のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)

メッセージを録音し、宛先を指定した後、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付ける	1
受信確認の返信を要求する	2
メッセージにプライベートのマークを付ける	3
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
最初からメッセージを再生する	1
番号を指定してメッセージを再生する (開封済みメッセージのみ)	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
保存する	2
削除する	3
再生速度を下げる	4
音量を変更する *	5
再生速度を上げる	6
メッセージを巻き戻す	7
一時停止 / 再開する	8
早送りする	9
最後まで早送りする	#
開封済みメッセージとして復元する *	# 2
返信する	# 4
全員に返信する	# 4 2
メッセージを転送する	# 5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	# 6
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	# 8
メッセージ プロパティを再生する	# 9
メッセージをスキップしてそのまま保存する	# #
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生後のメニューとショートカット (クラシック カンパセーション)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
再度メッセージを再生する	1
番号を指定してメッセージを再生する (開封済みメッセージのみ)	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	2
削除する	3
返信する	4
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す *	4 4
メッセージを転送する	5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	6
巻き戻す	7
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	8
メッセージ プロパティを再生する	9
そのまま保存する	#
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

*一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (クラシック カンパセーション)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

オプション カンパセーション 1 用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 96 ページの「メイン メニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)」
- 97 ページの「メッセージ送信のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)」
- 97 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)」
- 98 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)」
- 98 ページの「録音メニュー (オプション カンパセーション 1)」

メイン メニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージを確認する	3 1
削除されたメッセージを確認する *	3 2
セットアップ オプションを変更する	4
グリーティングを変更する	4 1
オプション グリーティングをオンまたはオフにする	4 1 2
メッセージ通知を変更する	4 2 1
ファックス配信を変更する *	4 2 2
標準ガイダンスまたは簡易ガイダンスを選択する	4 2 3
電話パスワードを変更する	4 3 1
録音名を変更する	4 3 2
着信転送を変更する	4 4
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	5 3

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ送信のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)

メッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	#
名前を追加する	9 1
メッセージに緊急のマークを付けて送信する	1 #
受信確認を要求して送信する	2 #
メッセージにプライベートのマークを付けて送信する	3 #
将来の配信を設定する	4
録音を確認する	5
再録音する	6
メッセージに追加する	7
メッセージを暗号化する	9 3

メッセージ再生中のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
巻き戻す	1
番号を指定して開封済みメッセージを再生する	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
一時停止 / 再開する	2
早送りする	3
最後まで早送りする	3 3
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	3 3 2
メッセージを転送する	3 3 6
メッセージを削除する	3 3 7
返信する	3 3 8
全員に返信する	3 3 8 2
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	3 3 9
再生速度を下げる	4
再生速度をさらに下げる	4 4
メッセージ プロパティを再生する	5
再生速度を上げる	6
再生速度をさらに上げる	6 6
音量を下げる *	7
音量をリセットする *	8
音量を上げる *	9
メッセージをスキップしてそのまま保存する	#
メッセージをスキップして、新規メッセージとして保存する (新規および開封済みメッセージ)	##

■ オプション カンパセーション 1 用電話メニュー

アクション	キー
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

*一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生後のメニューとショートカット (オプション カンパセーション 1)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
前にスキップする	1
番号を指定して開封済みメッセージを再生する	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	2
再度メッセージを再生する	4
メッセージ プロパティを再生する	5
メッセージを転送する	6
削除する	7
返信する	8
全員に返信する	8 2
送信者を呼び出す *	8 8
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	9
そのまま保存する	#
新規メッセージとして保存 / 復元する *	##
キャンセルまたは 1 つ戻る	*
ヘルプ	0

*一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (オプション カンパセーション 1)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 99 ページの「メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)」
- 99 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)」
- 100 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)」
- 100 ページの「録音メニュー (代行キーパッド マッピング N)」

メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
新しいメッセージを再生する	1
メッセージを送信する	2
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する *	3
セットアップ オプションを変更する	4
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	5 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	5 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	5 3
終了する	*
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを巻き戻す	1
早送りする	3
メッセージをスキップしてそのまま保存する	6
返信する	7 1
送信者を呼び出す *	9
キャンセルまたは 1 つ戻る	#
オペレータ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

■ 代行キーパッド マッピング N 用電話メニュー

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング N)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
巻き戻す	4
そのまま保存する	6
送信者を呼び出す *	9
メッセージ プロパティを再生する	70
返信する	71
再度メッセージを再生する	72
メッセージを転送する	73
全員に返信する	74
削除する	76
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	77
新規メッセージとして保存 / 復元する *	78
キャンセルまたは1つ戻る	*
オペレータ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (代行キーパッド マッピング N)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 101 ページの「メインメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)」
- 101 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)」
- 102 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)」
- 102 ページの「録音メニュー (代行キーパッド マッピング X)」

メインメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メインメニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを送信する	1
新しいメッセージを再生する	2
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する *	3
セットアップ オプションを変更する	5
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	8 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	8 3
終了する	*
メニューを繰り返す	#
メインメニューのヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージ本文までスキップする	2
一時停止 / 再開する	3
音量を上げる *	4
メッセージを巻き戻す	5
早送りする	6
音量を下げる *	7
再生速度を下げる	8
再生速度を上げる	9
メッセージの最後まで早送りする	#

* 一部のシステムでは使用不可。

■ 代行キーパッド マッピング X 用電話メニュー

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング X)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	1
番号を指定してメッセージを再生する (開封済みメッセージのみ)	1 2
前の開封済みメッセージを再生する	1 4
次の開封済みメッセージを再生する	1 6
メッセージを転送する	2
再度メッセージを再生する	2 3
削除する	3
新規メッセージとして保存 / 復元する *	4
巻き戻す	5
そのまま保存する	6
返信する	7
キャンセルまたは 1 つ戻る	#

* 一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (代行キーパッド マッピング X)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

代行キーパッド マッピング S 用電話メニュー

この項では、次のメニューのキーを一覧表示します。

- 103 ページの「メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)」
- 103 ページの「メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)」
- 104 ページの「メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)」
- 104 ページの「録音メニュー (代行キーパッド マッピング S)」

メイン メニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)

メイン メニューが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
開封済みメッセージおよび削除されたメッセージを確認する *	3
セットアップ オプションを変更する	4
新しいメッセージを再生する	5
メッセージを送信する	6
Connection ユーザからのメッセージを検索する *	8 1
すべての外部発信者からのメッセージを検索する *	8 2
特定の外部発信者からのメッセージを検索する *	8 3
終了する	9
メニューを繰り返す	#
メイン メニューのヘルプ	0

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生中のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)

メッセージが再生されている間に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを転送する	1 3
送信者を呼び出す *	1 4
前の開封済みメッセージを再生する	1 5
返信する	1 7
メッセージを巻き戻す	2
メッセージ本文をスキップする	2 2
削除する	3
早送りする	4
メッセージをスキップしてそのまま保存する	5
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	7
メッセージ フッターまでスキップする	8
メッセージの最後まで早送りする	#
一時停止 / 再開する	*

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ再生後のメニューとショートカット (代行キーパッド マッピング S)

メッセージが再生された後に、次のキーを押します。

アクション	キー
メッセージを転送する	1 3
前の開封済みメッセージを再生する	1 5
返信する	1 7
メッセージを巻き戻す	2
再度メッセージを再生する	2 2
削除する	3
全員に返信する	4 2
送信者を呼び出す *	4 4
そのまま保存する	5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	6
開封済みメッセージとして保存 / 復元する *	7
印刷のために電子メールまたはファックスをファックス機に送信する *	8
メッセージ プロパティを再生する	9
キャンセルまたは 1 つ戻る	*

*一部のシステムでは使用不可。

録音メニュー (代行キーパッド マッピング S)

メッセージ、名前、またはグリーティングを録音するときに、次のキーを使用します。

アクション	キー
一時停止 / 再開する	8
録音を終了する	#

ボイス コマンド

この項では、音声認識インプット スタイルを使用している場合に、次のメニューに対応するボイス コマンドおよび該当するキーを一覧表示します。



(注) Cisco Unity Connection に実装されている音声認識エンジンは、英語環境でのみサポートされています。日本語および日本語環境では使用できません。

- 105 ページの「メイン メニュー (ボイス コマンド)」
- 106 ページの「メッセージ送信のメニュー (ボイス コマンド)」
- 107 ページの「メッセージ再生中のメニュー (ボイス コマンド)」
- 107 ページの「会議リマインド中のメニュー (ボイス コマンド)」
- 108 ページの「メッセージ再生後のメニュー (ボイス コマンド)」
- 108 ページの「ユニバーサル アクション (ボイス コマンド)」

メイン メニュー (ボイス コマンド)

メイン メニューが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音するか、キーを押します。

アクション	ボイス コマンド	キー
ボイス コマンドのチュートリアルを再生する	「Tutorial」	該当なし
ボイス メッセージ、電子メール、ファックス*、受信確認、会議*を再生する	「Play <voice messages/e-mails/faxes/receipts/meetings>」	該当なし
すべての新規メッセージを再生する	「Play new messages」	1
すべてのメッセージを再生する(新しいメッセージおよび開封済みメッセージ)	「Play all messages」	該当なし
Connection ユーザからの新しいボイス メッセージ、開封済みボイス メッセージ、または削除されたボイス メッセージを再生する	「Play <new/saved/deleted> messages from < ユーザ名 >」	該当なし
ボイス メッセージを送信する	「Send a message」	2
開封済みボイス メッセージ、電子メール、ファックス*、または受信確認を再生する	「Play saved <voice messages/e-mails/faxes/receipts」	該当なし
すべての開封済みメッセージを再生する	「Play saved messages」	3
削除済みボイス メッセージ、電子メール、ファックス*、または受信確認を再生する	「Play deleted <voice messages/e-mails/faxes/receipts」	該当なし
削除されたメッセージをすべて再生する*	「Play deleted messages」	該当なし
すべてのグリーティングを再生する	「Play all greetings」	該当なし
特定のグリーティングを再生する	「Play <グリーティング名> greeting」	該当なし
標準グリーティングを再生する	「Play my greeting」	該当なし
新しいグリーティングを録音する	「Record <グリーティング名> greeting」	該当なし
標準グリーティングを録音する	「Record my greeting」	該当なし
グリーティングを使用可能 / 使用不能にする	「Turn on <グリーティング名> greeting」 「Turn off <グリーティング名> greeting」	該当なし
システム デフォルト グリーティングを使用する	「Use default <グリーティング名> greeting」	該当なし

■ ボイス コマンド

アクション	ボイス コマンド	キー
標準グリーティングとしてシステム デフォルトグリーティングを使用する	「 Use my default greeting 」	該当なし
グリーティングとして何も使用しない。発信者にはメッセージを残すように合図する発信音のみが再生されます。	「 Play nothing for my <グリーティング名> greeting 」	
グリーティング メニューのヘルプを再生する	「 Greetings Help 」	該当なし
特定の日付の会議を再生する *	「 Play meetings in <日付> 」	6
インプット スタイルを一時的にタッチトーンキーに切り替える	「 Touchtone conversation 」	9
Connection ユーザを呼び出す	「 Call <ユーザ名> 」 「 Call <内線> 」	該当なし
個人連絡先またはシステム連絡先を呼び出す	「 Call <連絡先名> at <home/work/mobile> 」	該当なし
削除済みアイテム フォルダにあるすべてのメッセージを完全に削除する	「 Empty Deleted Items folder 」	該当なし

* 一部のシステムでは使用不可。

メッセージ送信のメニュー (ボイス コマンド)

ボイス メッセージの宛先を指定し、録音が完了した後に、次のボイス コマンドを発音するか、キーを押します。

アクション	ボイス コマンド	キー
メッセージを送信する	「 Send 」	#
録音を編集する	「 Change recording 」	該当なし
メッセージ プロパティを確認する	「 Review message properties 」	該当なし
受信者を編集する	「 Edit recipients 」	該当なし
メッセージに緊急のマークを付ける	「 Set urgent 」	該当なし
メッセージの緊急設定を解除する	「 Cancel urgent 」	
メッセージにプライベートのマークを付ける	「 Set private 」	該当なし
メッセージのプライベート設定を解除する	「 Cancel private 」	
メッセージに緊急およびプライベートのマークを付ける	「 Set urgent and private 」	該当なし
メッセージに受信確認を設定する	「 Set return receipt 」	該当なし
受信確認を解除する	「 Cancel return receipt 」	
将来の日時に Connection からメッセージを配信する	「 Future delivery 」	該当なし
将来の配信をキャンセルする	「 Cancel future delivery 」	該当なし
受信者を追加する	「 Add names 」	該当なし
録音されたメッセージおよびメッセージ プロパティを確認する	「 Review message 」	該当なし

メッセージ再生中のメニュー（ボイス コマンド）

メッセージが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音するか、キーを押します。

アクション	ボイス コマンド	キー
最初からメッセージを再生する	「Repeat」	1
前のメッセージを再生する	「Previous」	1 4
次のメッセージを再生する	「Next」	1 6
メッセージを保存する	「Save」	2
削除する	「Delete」	3
返信する	「Reply」	# 4
全員に返信する	「Reply all」	該当なし
メッセージを転送する	「Forward」	# 5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	「Mark new」	# 6
メッセージ プロパティを再生する	「Message properties」	# 9
再生速度を下げる	「Slower」	4
音量を変更する *	「Louder」または「Softer」	5
再生速度を上げる	「Faster」	6
メッセージを巻き戻す	「Rewind」	7
最後まで早送りする	「Skip forward」	#
一時停止 / 再開する	「Pause」または「Resume」	8
早送りする	該当なし	9
再生速度をリセットする	「Reset speed」	該当なし
再生音量をリセットする *	「Reset volume」	該当なし

* 一部のシステムでは使用不可。

会議リマインダ中のメニュー（ボイス コマンド）

会議リマインダが再生されている間に、次のボイス コマンドを発音するか、キーを押します。

アクション	ボイス コマンド	キー
会議に参加する *	「Join」	3
参加者のリストを再生する *	「List participants」	5
会議開催者に送信するメッセージを録音する *	「Send message to organizer」	6 1
会議参加者に送信するメッセージを録音する *	「Send message to participants」	6 2
次の会議リマインダに関する情報を再生する *	「Next」	9
前の会議リマインダに関する情報を再生する *	「Previous」	7
会議への招待を受け入れる *	「Accept」	4 1
会議への招待を拒否する *	「Decline」	4 2
会議をキャンセルする（会議開催者のみ）*	「Cancel meeting」	4 2

* 一部のシステムでは使用不可。

■ ボイス コマンド

メッセージ再生後のメニュー（ボイス コマンド）

メッセージが再生された後に、次のボイス コマンドを発音するか、キーを押します。

アクション	ボイス コマンド	キー
再度メッセージを再生する	「Repeat」	1
前のメッセージを再生する	「Previous」	14
次のメッセージを再生する	「Next」	16
開封済みメッセージとして保存 / 復元する	「Save」	2
削除する	「Delete」	3
返信する	「Reply」	4
全員に返信する	「Reply all」	該当なし
元のメッセージを再送する（NDR のみ）	「Resend」	4
送信者を呼び出す *	「Call sender」	44
メッセージを転送する	「Forward」	5
新規メッセージとして保存 / 復元する *	「Mark new」	6
メッセージを巻き戻す	該当なし	7
元のメッセージを再生する（NDR のみ）	「Play original message」	8
メッセージ プロパティを再生する	「Message properties」	9

* 一部のシステムでは使用不可。

ユニバーサル アクション（ボイス コマンド）

次のコマンドまたはキーは、どの時点でも使用できます。

アクション	ボイス コマンド	キー
キャンセルまたは1つ戻る	「Cancel」	*
ボイス コマンドのヘルプ	「Help」	該当なし
電話のキーパッドのヘルプ	「Touchtone command Help」	0
メイン メニューに戻る	「Main menu」	該当なし
コールまたはシステムを終了する	「End Call」 「Goodbye」	該当なし
メッセージまたはメニュー オプションを繰り返す	「Repeat」	該当なし
プロンプトの再生速度を変更する	「Faster」または「Slower」	該当なし
プロンプトの再生音量を変更する *	「Louder」または「Softer」	該当なし
再生速度をリセットする	「Reset speed」	該当なし
再生音量をリセットする *	「Reset volume」	該当なし

* 一部のシステムでは使用不可。



INDEX

C		説明	40
Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時会議の開始	33	オプション グリーティングのオンまたはオフ	43
Connection へのすべての着信の転送のキャンセル	80	オプション転送ルール、説明	67
		オン	
		デバイスへの通知	50
		オンまたはオフ	
		グリーティングのオンまたはオフ	44
N		音量	
NDR。「不達受信確認」を参照		個々のメッセージの再生の変更	83
P		か	
Phone View オプション	19	会議	
		Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express での即時開始	33
あ		一覧表示	32
アクセス		管理、説明	31
Connection	5	開封受信確認、説明	15
アドレス指定優先順位リスト		確認	
説明	59	削除されたメッセージ	25
変更	60	メッセージ	9
		間接的なコール、せつめい	67
い		カンパセーション	
一覧表示		説明	3
ファックス	36	電話のキーパッドの使用	4
一杯になっているメールボックス		ボイス コマンドの使用	4
通知	87	メニュー スタイル、変更	65
理由	88	管理	
		会議、説明	31
お		受信確認	15
オフ		ディスパッチ メッセージ	27
デバイスへの通知	50	ファックス、説明	35
オプション カンパセーション 1、電話メニューとショートカット	96	き	
オプション グリーティング		緊急連絡先番号	
オンまたはオフ	43	説明	71
		変更	71

- く
- グリーティング
- オプション 40
 - オプション、グリーティングのオンまたはオフ 43
 - オンまたはオフ 44
 - 現在の再録音 42
 - 時間外 40
 - システム、説明 44
 - 祝日 41
 - すべて再生 46
 - 説明 40
 - 通話中 41
 - デフォルト以外の言語での録音 47
 - 内線 41
 - 内容 44
 - 内容の変更 44
 - 標準 40
 - 複数の言語の管理 40
 - 録音 44
 - グリーティングの内容 44
- け
- 言語
- 追加のグリーティングの録音 47
 - 複数のグリーティングを管理 40
 - 現在のグリーティング、再録音 42
 - 現在のグリーティングの再録音 42
- こ
- コール
- Connection にすべて転送 80
 - Connection へのすべての着信の転送のキャンセル 80
 - 間接的、説明 67
 - 直接的、説明 67
 - ボイス コマンドを使用して発信 29
- 個人設定
- 説明 61
 - ディレクトリ一覧のステータス、変更 64
 - 電話パスワード、変更 62
 - 録音名、変更 63
- さ
- 再生の設定
- 説明 83
- 削除
- プライベート同報リスト 58
 - プライベート同報リストからのメンバーの削除 56
 - メッセージの完全な 24
- 削除されたメッセージ
- 確認 25
 - 完全な削除 24
 - 説明 23
- 作成
- プライベート同報リスト 54
- し
- 時間外グリーティング、説明 40
 - 時間外転送ルール、説明 68
 - システム グリーティング、説明 44
 - システム同報リスト
 - ボイス メッセージの送信 6
 - 祝日グリーティング、説明 41
 - 受信確認
 - 管理 15
 - タイプ 15
 - 受信確認のタイプ 15
 - 使用
 - 電話のキーパッド 4
 - ボイス コマンド 4
 - ショートカット
 - オプション カンパセーション 1 96
 - 代行キーパッド マッピング N 99
 - 代行キーパッド マッピング S 103
 - 代行キーパッド マッピング X 101
 - 標準カンパセーション 90, 93
 - 初回登録 1
- す
- [全て転送]ルール設定
 - 説明 78
 - 有効化および無効化 78
 - すべてのグリーティングの再生 46

- そ
- 送信
- ボイス メッセージ 6
- 速度
- 個々のメッセージの再生の変更 84
- た
- 代行キーパッドマッピング
- N 用電話メニューとショートカット 99
 - S 用電話メニューとショートカット 103
 - X 用電話メニューとショートカット 101
- ち
- 着信転送ルール
- オプション、説明 67
 - 時間外、説明 68
 - 設定の変更 68
 - 説明 67
 - 標準、説明 67
- 直接的なコール、説明 67
- つ
- 追加
- アドレス指定優先順位リストの名前 60
 - プライベート同報リストへのメンバーの追加 56
 - リモート連絡先をプライベート同報リストに追加 56
- 通知
- オンまたはオフ 50
 - 説明 49
 - 電話番号の変更 51
 - ブロードキャスト メッセージ 85
- 通話中グリーティング、説明 41
- て
- ディスパッチ メッセージ、管理 27
- ディレクトリ
- 一覧ステータスの変更 64
- 転送
- すべての着信を Connection に 80
- メッセージ 13
- 転送。「着信転送ルール」を参照
- 電話のキーパッド
- Connection での使用について 3
 - 使用 4
- 電話パスワード
- 変更 62
- 電話番号、通知の変更 51
- 電話メニュー
- オプションカンパセーション 1 96
 - 代行キーパッドマッピング N 99
 - 代行キーパッドマッピング S 103
 - 代行キーパッドマッピング X 101
 - 標準カンパセーション 90, 93
- と
- 同報リスト
- ディスパッチ メッセージの管理 27
- な
- 内線グリーティング、説明 41
- 名前。「録音名」または「代行ユーザ名」を参照
- は
- パーソナル着信転送ルールの設定
- 基本転送ルールにおける有効化および無効化 74
 - 個々の有効化および無効化 76
 - 使用の有効化および無効化 75
 - 説明 73
- ひ
- 標準カンパセーション、電話メニューとショートカット 90, 93
- 標準グリーティング、説明 40
- 標準転送ルール、説明 67
- ふ
- ファックス
- 一覧表示 36

- 管理、説明 35
- 転送電話番号の変更 37
- 不達受信確認
 - 管理 15
 - 説明 15
 - メールボックスのサイズに対する影響 88
- プライベート同報リスト
 - 削除 58
 - 作成 54
 - 説明 53
 - ボイス メッセージの送信 6
 - メンバーの変更 56
 - リモート連絡先の追加 56
 - 録音名の変更 58
- プライベート同報リストのメンバーの確認 56
- ブロードキャスト メッセージ 85
- プロンプト、説明 3

- へ
- 変更
 - アドレス指定優先順位リスト 60
 - カンパセーションのメニュー スタイル 65
 - 緊急連絡先番号 71
 - グリーティングの内容 44
 - グリーティングの録音 44
 - 個々のメッセージの再生音量 83
 - 個々のメッセージの再生速度 84
 - 着信転送ルールの設定 68
 - 通知先電話番号 51
 - ディレクトリー一覧のステータス 64
 - 電話パスワード 62
 - ファックス転送電話番号 37
 - プライベート同報リストのメンバー 56
 - プライベート同報リストの録音名 58
 - 録音名 63
- 返信
 - メッセージ 11

- ほ
- ボイス コマンド
 - Connection での使用について 3
 - 使用 4
 - 使用して電話を発信 29
 - チュートリアル 4
 - ブロードキャスト メッセージの処理 85
 - リスト 105
 - ボイス コマンドのチュートリアル 4
 - ボイス コマンドを使用した電話の発信 29
 - ボイス メッセージ
 - 送信 6
 - 送信するための特別な送信オプション 6

- む
- 無効化
 - 基本コール転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の使用 74
 - 個々のパーソナル着信転送ルールの設定 76
 - [全て転送]ルール設定 78
 - パーソナル着信転送ルールの設定の使用 75

- め
- メールボックス
 - 一杯になっていることの通知 87
 - 一杯になってしまう理由 88
 - 説明 87
- メッセージ
 - Phone View オプションを使用した検索 19
 - 確認 9
 - 完全な削除 24
 - 個々の再生音量の変更 83
 - 個々の再生速度の変更 84
 - 削除 23
 - 削除の確認 25
 - ディスパッチの管理 27
 - 転送 13
 - ブロードキャスト 85
 - 返信 11
 - メッセージ ジャンプ オプションを使用した検索 22
 - メッセージ ロケータ オプションを使用した検索 18
 - メッセージ ジャンプ オプション 22
 - メッセージの検索
 - Phone View オプション 19
 - 説明 17
 - メッセージ ジャンプ オプション 22
 - メッセージ ロケータ オプション 18

メッセージのサイズ、メールボックスのサイズに対する影響 88
 メッセージの到着通知。「通知」を参照
 メッセージ保存ポリシー、メールボックスのサイズに対する影響 88
 メッセージ ロケータ オプション 18
 メッセージを送信するための特別な送信オプション 6
 メニュー スタイル、変更 65

ゆ

有効化

基本転送ルールにおけるパーソナル着信転送ルールの設定の使用 74
 個々のパーソナル着信転送ルールの設定 76
 [全て転送] ルール設定 78
 パーソナル着信転送ルールの設定の使用 75
 ユーザ、登録 1
 ユーザとしての登録 1

よ

予定

一覧表示 32
 管理、説明 31
 予定されている会議の一覧表示 32
 予定表
 会議の管理、説明 31
 予定されている会議の一覧表示 32
 呼び出し
 Connection 5

り

リモート連絡先

プライベート同報リストへの追加 56

る

ルール設定。「パーソナル着信転送ルールの設定」を参照

ろ

録音

デフォルト以外の言語でのグリーティング 47
 デフォルト言語のグリーティング 44

録音名

変更 63